
90
100
2113

八五
2113
門へ利 45
帳 2113
号

藤澤潔氏遺愛之記

明治四十年三月廿日
藤澤潔

一六五

十六日 落

三ノ戸 四 残暑 五ノ

八 柳 九 発 十 扇 賣

十三 寿 十四 月 十五 夕 寿

十七 薄 付 尾花

十八 萩 十九 女郎花 付カヤ 葛

十三 花野 廿二 朝顔

十三 庵 二十七 小春

稲妻 廿九 早田 苗 虫松 釜

〇八月

天 稲葉 廿九 思草 廿七 蓼草 廿二 芭蕉 廿三 司召

三三 放生 三四 駒迄 三五 初潮 三六 初嵐 三七 野分
三八 鶺鴒 三九 鶫 四〇 百舌鳥
四一 長夜 四二 崩簗 四三 渋鮎

〇九月

四四 蟋蟀 四五 紅葉 四六 菊 四七 夜寒 四八 冷
四九 鶫 五〇 炉 五一 焼酒 五二 落葉 五三 炭
五四 木枯 五五 朴 五六 人こゝろ 五七 椎
五八 栗 五九 炬燵 六〇 火桶 六一 蓄

〇十月

一 初雪 二 霜 三 木葉 四 冬籠 五 枯野
六 千鳥 七 磐竹 八 鴨 九 才 十 炭竈 十一 網代 十二 寒鴉 十三 氷

〇十一月

十四 氷 十五 戦 十六 雪 十七 橇 十八 霙
十九 小雪 二十 冬至

〇十二月

二十二 神樂付燎 こぐら物 二十三 狸大 品 冬種
廿五 年内三毛 二十六 佛名 二十七 荷前 廿八 進雛 十九 年山ざる

○戀部

一 戀 二 思ひ 三 逢 四 待 五 恨
六 契 七 わすれ 八 別
九 れじ 十 別
十一 妻 十二 雖面十三 文 十四 使 十五 名
十六 洞 十七 夢
十八 いそのかみ 十九 宵 廿 逢
廿一 うらみ 廿二 妹 廿三 新枕 廿四 古き 廿五 色好 廿六 袖
廿七 占方 二十 物の ま 卅一 うらみ 卅二 近 遠
卅三 近貧 卅四 ちはや 卅五 わざ 卅六 偽 卅七 情
卅八 行 卅九 暮 四十 淺 四十一 くる 四十二 逢路 四十三 ゆくへ 四十四 方 四十五 書 四十六 中 四十七 絶 四十八 ○述懐

一世ヲ捨ル二ハ　三老付齢四　臣家五　墓
石墨梁ノ油　七　藤衣八　臣人カ死ヲ命
十　古墳土　墓ノ泉十三　ホノ
志親　十　なの教十
五　六子ヲ七　枕ラノ

○釋教

大寺　十九　室　二十　法　主行　二十　悟
空　園伽波廿四　暁廿五　衣ノ玉廿六　佛　二十三　竜
天　女ノ世ハヲ

○神祇

一　神　二　天　三　社
守ねさ　六　注連　七　祝子九
○旅之部
十　旅　土　都　土
志　船　十五　駒　十六　駅路　十七　坂　十八　越ル　峯
十四　ヲ　冬　二
十　方ヘ　ヲ
○山類

一山 二峯 三岡 四谷 五藁
云坂 七畑 八林 九杣
○水辺
十瀧 土浦 付海沖 十二濱 付洲崎
十三磯 十四江 十五湊
付みを十六海士 十九川 付湖水 二十池
二十一澤 二十二沼 二十三井 二十四堤 二十五岸
二十六稲 二十七種 二十八株 二十九井関

○居所
三十殿 三十一樓 三十二宿 付家 三十三屋 付戸口 三十四扉
三十五菴 三十六軒 三十七門 付戸 三十八窓
三十九床 付縁 四十里 四十一里 唄 四十二里 墓
四十三邊 付砌 四十四里 四十五外面

○植物
一松 二杉 三植 四檜 原 五檜 柏
六森 七草 八葛 九芝 十菅

蒙 十一 蓬 十四 蓬 十五 浅茅
ひる 十七 篠 十八 竹 十九 薮 二十 小田蛙

○生類

鷺 二十三 鴉 二十四 鵯 二十五 鳩
鳶 二十六 鶯 廿九 泥鰌 三十 鳥
鼈 三十一 牛 三十二 猪 三十三 虎
狐 卅四 兎 卅五 猫 卅六 猿
獣 卅七 蜍 卅八 蟹 卅九 猪
奥付貳

○雑部

一日 付空二 星 三 朝 付四 久 付五 雨
六 雨 七 雲 八 烟 九 汽 付共十 烟 神
土、虹 十三 天 彦 十四 鐘 十五 野
十六 市 十七 岩 付石 十八 真砂 十九 柴 薪 二十 釜
二十一 蓑 二十二 布 二十三 洗衣 廿四 摩衣 廿五 鳶
付 花の袖 廿六 焼火 廿七 舞火 廿八 灯 廿九 車
三十 鏡 三十一 繪 三十二 硯 付 三十三 扉 汽 廿四 髪

三十五 初鴈 ハツカリ 秋 倒句 左遷 サスラヘ 秋 暮
秋 鞠 平 詩 平 聖 簡 平 笄 平 う入 聖 学
聖 琴 平 笛 平 去 糸竹 平七 兼 平六 玉
平 錦 去 仙人 去 う入の仗 去 唐
去 都 去 書 君 去 五 三 平 去 法 去 之住
去 人 宿直 ヤドリ 去 九 三ツ 平 調 ヅキ 六 主儲 ヂノ 六 酒 什 所心 ドコロ
六 家の八 六 三 六 四 町 六 五 賀 六 祝言 ホギ

春立

正月 ムツキ 廿五日 廿六日の夜 廿七日の夜 廿八日の夜 廿九日の夜 三十日の夜 今晨 今年 去年 連夕 星 昌

京都大学附属図書館

昌陽

一星一昌分 罗称八寸 二月 苗 五尺 後成
年中行事秘伝曰 春三月 九日 洛之西

茅子

一甘苦子 屠蘇白散 加仁寺 和
○栗之和 いそ 百数八月 実分油 延

腹赤魚

一腹赤魚 鱒ニ云 景行天皇海宇肥前宇土郡
長濱ニ行幸ス 此魚ヲ得テ 初テ

水雞

一水雞 土 ○九月ニ 年ノ初 連子油
一歩ノ田ニ ○老ル年 洛之西 相
年中行事秘伝曰 十月ニ 洛之西ニ水ヲ入ル 和
一名水 ○消一歩 雀 雨 ○池河
君ノ御代ノ如ク水ヨシモ 後成

若水

正 一名若水 ○四方ノ海 初春 吉書ノ事
年中行事秘伝曰 元日ニ 若水ヲ汲 都ニ

正月

若菜

子日

子日 子日松 子日すゝ野
小松引 袖 二月初子日 野
行幸 ゆく〳〵小車 小松をひくいとま
舟岡 春日野 倚松根 摩腰 千年 翠黛 手
君が代に逢ふ日も松の ふる人
初春の初子の今日の ひく手
子日もしつゝ ふる人に 道 ふる

若菜

白馬節會七日 御馬三十疋 階
年中の邪気を除ント
百年の人 庭 若菜 野辺の
若菜 摘む 袂 雪
若菜 摘む 袂 雪
○雪の中の人 雪 袖 里人 山賤の垣根
春日野 みゆき 朝原 生田の杜人

主

芹

上

芹 付云く芹異名多し又別に有ども

楊芹 小芹 沢の根芹 ㊀芹 沢芹

云く楊 云く入ぞふ 山さふく 川ぜり

○水清 澤ぜり 小田ぜり 雪消

ぜり 異名白根草

㊀ 生谷水沢ぬるき君ぞ小芹つむ 楊 件

同 ㊀のかりそめ田人時ぞ楊芹とる 雑

三

正

梅

上

梅 梅ぼし 梅酒 梅干 梅園 梅花

宿の梅 梅ぼしを 梅干を 梅園に

咲る梅 香ある梅 匂ふ梅 谷の梅 深山の梅

梅の一枝 外の梅 砌の梅 梅がえ

○咲る 香の芭 宮清 賤が垣 梅

香尺 笛の音 去の月 初風 雁渡 梅

梅ぐひ 梅ぐひ 梅ぐひ 梅ぐひ

しめのひ 梅ぐひ 梅ぐひ 梅ぐひ

雅波津

波津

賭弓

賭弓

正

賭弓

正

雅波津

波津

賭弓

賭弓

正

賭弓

正

雅波津

波津

賭弓

賭弓

正

賭弓

正

鶯

正

一鶯　初春　友春　園春　新春　春人　春禽　春鳥　春友　春園　春風　春谷　谷風　谷鶯　谷の鶯　谷の古巣　羽ぶき　羽うち　羽風　羽音　羽の音　羽の風　羽の雨　羽の露　羽の霜　羽の雪　羽の氷　羽の花　羽の雲　羽の月　羽の雫　羽の玉　羽の錦　羽の衣　羽の袖　羽の色　羽の光　羽の影　羽の姿　羽の形　羽の山　羽の谷　羽の里　羽の園　羽の朝日　長岡松詠　朝のもれぬ宿

一霞 三春朝夏夕秋 霜 霧 霧流 たなびく 霞む 霞める 霞める山 霞める山 霞める山

佐保姫

こすの三まの鐘の音 ちの消

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蒲

長閑

正

一朝雁鳥 白尾鷲 狩場の雉子入 狩猟衣 まつたく人 とらと狩 ぎまつと山ぬを
去る 聞と云る 狩場の雉子入 狩猟の
る 今し声 春まし まつり人 山のまつるの
とれ まつ 河ぎまつ
とらをつる 雪 重 今子 雪 まつ 好友

神の事 更野の原 又 狩 草枕
そまつる月 山の下 卧 むのうけ
雪 三條院
まつ 雪 山 雪 とらをつる 九製
一雉子 旅中 雉子 朝 雉子 旅子 家
わさの雉子 子 雉子 来ぎさん
雉子 生 雉子 旅 天明音
○雪 雪 山道 雪 草 禁原
雪 雪 雪 雪 雪 雪 雪

春月　朧月夜　月のすむ

月　去閑故月の扉　春

春雨　山吹　柳

春雨　山吹　柳

春雨　山吹　柳

若草 三

本目

浪うつ 枕田うつ 柳 楫八庭うむ もとうつ 後の清

おなじき 御うつ きよみ水 定家

但 青柳 いむうつ きよみ水 定家

いむうつ ゆふかけて 定家

未うめ まめ

降雨 来園生 三月日 七浦 森 柳

の草 まうつ草 まうつ草 まうつ

三まま 若うつ 草 草 草

○雉子の色 名清一野 三駒 幾り 姫ね

若柳 杉楽柳 いの柳 元永柳

○春風 末川ぶり 池う 岸根 姫 若 作

遊う霧 小田の苗代 三雨 清う 打霧

花柳曇 納涼 高城山 佐保川 宮川

吉野川 鶯う 道 ○柳上 鶯花 庭 々 琴

○離別 河辺 宿 柳 一條 ○東岸西岸 柳 遥遠 不同

古 浅茅 ○ 道の 中清の 御

畑焼

畑焼く　付野焼く　焼古畑　畑うつ

麦踏

麦踏　麦踏む　麦踏女

春田

春田　春田打　田打

春耕

春耕　耕す　耕人　耕牛

鳳凰

大原奈良

佛の別

一大原奈良 二月上申の日 三笠の郡 小塩山

奈良より京道 小塩山

一佛の別 去年 佛 二月のつごもり

の花播磨 松 盛 きさき 綱 法の力 すこし

煙の雲 古寺 松 ぶのゆきて なり

行夏 灌佛 四月八日 神 四月 なり

澤 厂 京

車の奈

小野 大 車

○別 厂 沢 雨 降 雖

入 ○ 軍人 雲 入

そろ 二月上申日 そけ 後撰

二月 十一月 三 日 神奈 春日山

○道 小車 野 の 松 奈 人 入 青

二月 初申 日 雲 日 雲 ○ 乳 絶

み 注連縄 も 片 を

天津乞児 ものもらひ越の海の浪を分て小島の蜑の
一ぬくめ 名燕 渡る 蜑の舟
一雨 名蛙 新 小雨 春の門 家居
こすのと 舟の帆柱 燕知社日辞巣去
門田かな 十六里行く 梁燕双栖
一胡蝶 名胡蝶 あら胡蝶 蝶々
昭々たるすゝ名胡蝶 蝶々

三人曙 三菱海苔こすの山 波分つゝ
ゐる琴音 春日 泊舟 孝行咲
湖渡る田面 志賀浦 比良海 みなみ
むき と云 花 二十五絃弾 夜月
丁解ると云 月 小汐 汐干 源氏
須丁の巻 小汐 汐干 源氏
小汐 汐干 源氏 須丁の巻
小汐 汐干 源氏 須丁の巻

○遠の寺かすみの色 のどかなり 芭蕉

花園 去来の伝 蕪 歌仙 朝日 菊

○ 蝶こゝまでおひかけてきし羽あつき 芭蕉

物ニハ蝶こゝまでおひかけてきし羽あつき 芭蕉

よき春もわすれ 牡丹花下 駿猫兒意

春もわすれ 葉蝶不在花

ニてこゝまでおひかけてきし心あつき 中

一松のあるあらし 猿立松 松のむ 十代の松

○まつくらく峯 去雨 藤 岑雪 蕪 岑雪

梨花

一刻梨花 山もとのむ 行の

吉奈 今一 一

○ 梨の浦 梨花 枝第 二春雨

生の浦 梨花 枝第 二春雨

一花 初む 友 摘む むの末

むの波 なる園 一む 千花 百春む

うすむ 花 むこかご

むの花 花 花

花てみそ
ひろ花ざ
花夜月
○雪 る入鴉
九重門 菊城山
秀句三首 四首
世の事

瀧 花皿 む
感 花盛て 拙物云 む 軸月
詞の む
数冬 垣 色 花
酌 松 狭 む
初秋 養得 自酔 花 番
梅咲 行 行
行 行

む起く 氷 ふ
冬 閉 ひ
年 ふ
花 散 雨 わ
ふ ひ 君
入相 鐘
千
む 猫 古 巣 障
業 無

●桃の鯛　まの海の静
（まの浦のきよき鯛わりなくこと戸ん白家
（打下）まもるやうに介ゝみの桃
（海深）いろのやうの少の桃むこ
三月　（弥生）　桃月　（弥生）

一桃　桃園　和句桃　（弥生）
○支閑成朝日一枝や　桃
仙人宿　春色　砂盃　牛こ

花園　志賀
（海の山
（まもるや
心のひ　桃とりて　（まつ
結ぶみくらの春を春
（深）

一桃　初桃　八重桃　里桃　つぶ木の桃
（老木の桃　家桃　岩木の桃　おわり桃
山桃　桃将軍　桃のやうな　桃の鯛
桃貝（白　桃田桃のきよき
（付合大くこと

永日　暮れ易き春の日　ながながしとも

ながく〳〵日の　あるかひなき

越の山　こしの雪　消えやすき

雪人　かきしのむ　○琴　笛の音

かすむ神垣　夫人　流れの汀　来雁院の宇二郎

南条　石清水の社の　三月　扈従

蛙　井の蛙　岩かきすむる蛙　石井の蛙　苔清水蛙
○小田の谷口　苗代小池の古沼井の雨
蛙　ふるさと江のあしべ　故郷　淋しきうき
玉川　神南備川
井の蛙　人やこはまの蛙　後
鳴　蛙　宿　蛙　池　蛙　水　蛙　聞　蛙
蛙　井　蛙　今　蛙　三

蛙　井の蛙　井の蛙　つるの蛙　かなつやかまも
鮎　浜鮎　浜鮎　崩築　おと
宇治川　大井川　筏川　松浦川
○三つの川の桂川
蒲川　落ち蒲　山石ぶちの山吹　垂れ
苗代　苗代　ふるさと苗代　みどり苗代
苗代　苗代　苗代　苗代
○三つの苗代
蛙　朝寒

巖

一 巖 初巖 さうもん 谷法 世と捨人 雲野 春來
○行く畑 み山 岩屋 宮城 宇治山 紫塵 嬬 蔵人 拳る手
しんそうく 大ぬさ 遺書
○雲入野 吉野 山根芹 流れ 雪 集
一 巖 摘菫 若草 咲 むす菫
○雲入野 吉野 山根 芝草 寄掃袖

菫

雲雀

三

一 鳥帰 雲 雲入野 吉野 山根 芝草 原 巴 たのそ
雪 み 染 流れ 雪 雲 雲入野 吉野 山根 芝草 原 巴 たのそ

三

松風颯颯松の
聞ゆるこのそもそも雨ぞ宿遥に扉のめぐり
主のうけ
白山信濃松高砂
濱人宿伊勢物語紀の有常が
女のむすめ
なまつをもやくすべもなし
天の浦人麻呂の旬
乱宿人麻呂の
行のえれ松よかれ

一歌文
井手山吹
○万葉の歌
衣かも
神南備川
乱宿業平

更衣

四月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月 ㋕月

白かるね ○ なう(ナゴリ)余波(なごり)おもふ

○ 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣 更衣

対する(ニ)の物も 更(ニ)の消え 更(ニ)仕 更(ニ)

在(ル)捨(テ)る袖 苦(シ)き(キ)事(コト)も 忌(マ)る心(ヲ)そ

気(ケ)も 十月 うりうりこそ

青苔(アヲコケ)の衣(ころも)掛(ケ)敷(シキ)眉(マユ)

白(シロ)き(キ)袖(そで)を 夜(よ)の天(あま)の 衣(ころも)持(モチ)添(そ)へ

重之(しげゆき)

更衣

㋕花 ㋕鳴 まつ 池(いけ)

杉(すぎ)

の(ノ)

古(ふる)

今(いま)

古(ふる)

一(ひと)

衣(ころも)

の果(はて) ○ 物も残らぬ山(やま)

物(もの)する 義(ぎ) 連(れん)

更(ころも)

初(はつ)

初卯月　匂ふ卯月　八重の卯月　卯月曇　垣ね
の卯月　卯月の雪　卯月ぐもり　雨
の卯月　文の月　○阿ぶ
小野の里　生垣
みそぎ川　波の卯花　卯月の影
神垣　卯花垣　白妙の卯花　山里　幾かの垣ね　卯月
○白河

牡丹

一牡丹　岩牡丹　○深山牡丹　庭牡丹
二津の守と　白雲　八橋　浅沢沼　植る
深山
実もさそふ花の　池の汀の　咲ぬ
花のはつかに　咲ぬ牡丹　公家
咲る人をこそ深沼の牡丹　公家
会釈のうちや　姫の牡丹　公家
一牡丹　みぐさ　草

○蚊の字 名 季月 胡蝶 猫

蚊 杜井花卜 蝶 猫 在心華蝶

子規 山子規 山子規 子規 子規の声 子規の声 子規の声

一新樹　春くれば　春のおもに　春くれの緑
こぞ今年　春秋の　春八何ぞ　文之
春の机を　文無き春の　春日の永き　春草
よもぎ摘む　春八三月　淡く
春くれば八〇河る　村雨　文山　文月
春くれば八〇菊　春草　なども

一神楽　大原楽　晴月上　三輪明神　一稲荷楽　同上
一雲野楽　同上申旦　往還といふ　一松尾楽　同上申旦
一廣瀬竜田楽　同四日之　一吉田楽　同中子旦

一加茂楽　同中ノ丑日　地久にて　神楽ニ有八加茂ノ故加茂
付の事ありし　他ノ名所ハ　加茂のみあり　同楽之ありも
ゑ今日加茂の楽ハ　神ノ　柚　とろハいまこゝもあり
楽人の装束　次ぐく　小車　舞人　歌河　かく楽
白地ニ　春日　大原　楽と計ハ　ヒタ　小田ゑ口
ふきむ　楽ニ有ル　舞ニ有ル　心よりて

葵

二葵 ふたもじ三文字 こゝろ 日かげ葵草 桂と何ら同じ 四月申酉日を
こゝろ 日かげ葵草 桂と何ら同じ 四月申酉日を
葵草 三月 ワタシ
○七女子 七人 衣 何る 賀の条 の句こゝろ
○七女子 七人 衣 何る 賀の条 の句こゝろ
川 ま 衣 ま の末 衣 ま の頃 添き 衣 を
川 ま 衣 ま の末 衣 ま の頃 添き 衣 を
川添り
川添り

葛蒲

五

とりすてる 小百合 赤 排 小道 下面 古 庭 外面 の 琴
とりすてる 小百合 赤 排 小道 下面 古 庭 外面 の 琴
森の下法 三面 駄
森の下法 三面 駄
森の下法 三面 駄
森の下法 三面 駄
五月 さ月 さ月や 皆月
五月 さ月 さ月や 皆月
十 菖蒲 形の菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲
十 菖蒲 形の菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲 菖蒲
わかめ 衣 菖蒲 衣 菖蒲 衣 菖蒲

池へわやめ○水へ入てま　道の橋　小家ちかく

五月雨　と降ものから　山こわく　ま人

三代のを　沢辺の道　淀のわたり

（松）（古）
夏柏人名の歌七首をかけるあやめもみな人の絵

河ちかくやさうきのわやめもさく夏もすゞ

（エクボ）
芒魚　一ぜんも　油入まむ　白よまむ　狭こゝろ茶まむ

○大こゝろ　あやめふ　ゑゐ　匁盃

日折句　一ゝ

一ゝおもと入日○ゝ日小車　油入ちく

五月雨

第廿　一ゝ

一ゝの竹　ゝの茶入竹　千代ゝの竹　茂ゝの竹

ゝ五月雨　打入木葉　家　窓の蛍　色　夜の月

園生　下前

一ゝ五月雨　みりの氏　まぬ　ゝ雨　晴ゝ

き五月雨　さみゝ　ゝ　ゝ入雨

さ月の雨　ゝ　ゝの竹　蛍　燈（ともし）　富浦

月ゝぬ窓　下前　移　道の　茶　蔦のち

子規　こりずまに富士入れむ　袖の涼　涼しさや越谷川柳　秀の三ケさ

五月雨やあやめ沼の名所浪　おさ

五月雨や日も雲よりも須磨の山　陰峯

わらべ歌　わらべうた

採麻　灯干採　夜を門　麻の葉　わらべ唄

○里人やめくら　麻の園　注ケ　まう浦

早苗

四季雲

採麻　わらべうた

わらべうた　須磨の浦浜辺の里の子供らも小さき手にも折敷き

なのそのわらべうた　夜入月　麻の葉

わらべうた　わらべうた　わらべうた

一年前　早苗とる　早苗　わらべうた　柴陽草

○五月雨　蛍　舞ふ　よみの杜ト云

わらべうた　名所　祖春

麦 杉

麦 麦の事 そのハ里人のまり沢カニのる ふるの中清
むぎ 麦 むぎ 麦 麦の事 そのハ里人のまり沢カニのる ふるの中清

鮎

鮎 年魚 鮎鮭 鮎鱒 鮎鯉 鮎鯊 鮎鯰 鮎鰻 鮎鰹 鮎鰯 鮎鰈 鮎鰆 鮎鰤 鮎鱸 鮎鯛 鮎鰺 鮎鰡 鮎鰕 鮎蟹 鮎蛸 鮎烏賊 鮎海鼠 鮎海月 鮎海老 鮎蛤 鮎蜆 鮎蜊 鮎蠣 鮎蛤蜊 鮎蜆蝶 鮎蜆蝶 鮎蜆蝶

海松 玉藻 海松 海松メ 海松むろ 海松布 川苔
みるめさうき海松の 浪傳ふ よる渡
満汐芦や 芦ぐろ うきこも 菊の凡 真菰
伊勢海 雑波文 大淀の浦
真食かくれ 公の菊花 みるめ
うき松こも 伽羅 海松こうけう 沖つ
青ほう入日 雨月 夕の月 椿 [illegible]

菅 菅 真菰 真菰草 真菰刈 真菰葺 真菰
みくま 沢の真菰 沖の真菰 入江の真菰 菰刈
小田 花うこぎ 苗代 沼の 入江舟 五月雨 菰
おやまの芦辺 淀の渡 三島江 玉江 河ぐち
(株 菰こもかぶり)
(主 菰)
菰 おこもたまむ 菰まくら 菰まくろく 菰ほ
刈 菰ふみ うのこ住野
○蚊遣 夏草 田中入道 蚊遣火 蚊

螢

二十九

○螢　たくさの絵ともあまた錦渡人も春ま要多錦

○うの夜川ふ里川つ目さまま秋子歌

蛍の庵　朱の戸　明石ぞ春

（蛍は撰さの夜ふかき程ひさまきふ人をまそその路の何ふうん　北窓

二十九

一螢　ふそうめ消く蛍　蛍乃ふ乃消く乱ふ蛍

○夜ふの行　夜草　十月雨　雨夜ふ窓川ふ

池のふきるよ歌ふ　洲流源　夕ふ月遅き夜

秋夜

蛍火乱飛秋已近
車入らう 雅波 艸ん 名う浦　　屠草化成蛍 仲冬

雅波江のまをよすくふ舟の内にも
ぬるそでふる螢のわそふ(ふ)ほたる
ここ淡路の里の月べの蛍うの
一故郷を夫　故郷をふる　ふる故を燃く
こうやも夫　蚊の涸ふる故の色　故んふら
○うえの夜　賤の女やも　蚊屋　蚊の真

蟬

五

蚊の声ぶんぶん守扇　秋已近
故やり夫の扇うをきうえのあ
一蟬一　蚊の声深入月うえ
蚊のひと声いる蟬の涓　深河面
ひぐらし　秋う指　あつき日　朱入戸　きしきの森
えんじゅの木まのちるそれ　蚊の声小雪ゆう　金龍
おもてけきの森う蚊の声小雪ゆう　在京橋
一短夜　の夜　なり乃夜

○よ紙の一しな　夜月　笑ひ草

海ら将舟　指つま張すく　うき別

音ケ　夜もるうちはうめやかぬ花の称芝よ知ちり舎　羅

一文月　うの夜待月　明やすき夜の月

○よ歌　うの月生む　晴ル五月雨　乳酒瓶

夕ちの伝　茂くこ山　納涼　謡るまるく寸扇

名　逸久のそこうけるくすめ月名　軽

七月　ふ沙月　ろる年月　ちる月

氷室　一氷室　山城　氷室む城名　ゆとのてう

山もむ名　氷室むの法調　○　ちるき法　てそこる法

夜山の奥　ゆま涼しき　松ふ歌　山城

七月も涼しうこそ法の名よおくあやゆむ地凡　雑

月　夜の日も涼ゆりてる重ふれや山むのてう地凡　夏

三十五

一夕顔　夕ちの地　白き文乳　夕夜の宿　打ま雨

うまさく　夕ちの○　歳暗ケ　小ふる　車　打ま雨

車を主ふ　指子　口ふの上入ま

をてこと

梅

二

梅の花 三十七 付 ○梅の花 ○梅の香 ○梅の匂 ○梅の色 ○梅の枝 ○梅の木 ○梅の実 ○梅の蕾 ○梅の花びら ○梅の散る ○梅の盛 ○梅の園 ○梅の林 ○梅の宿 ○梅の下 ○梅の陰 ○梅の匂ふ ○梅の咲く ○梅の散る ○梅の盛 ○梅の園 ○梅の林 ○梅の宿 ○梅の下 ○梅の陰 ○梅の匂ふ ○梅の咲く

蓮

六

蓮の花 ○蓮の葉 ○蓮の露 ○蓮の実 ○蓮の糸 ○蓮の台 ○蓮の池 ○蓮の浮葉 ○蓮の根 ○蓮掘 ○蓮の飯 ○蓮の茎 ○蓮の葉 ○蓮の露 ○蓮の実 ○蓮の糸 ○蓮の台 ○蓮の池 ○蓮の浮葉 ○蓮の根 ○蓮掘 ○蓮の飯 ○蓮の茎

三十七 蓮 付 ○蓮の花 ○蓮の葉 ○蓮の露 ○蓮の実 ○蓮の糸 ○蓮の台 ○蓮の池 ○蓮の浮葉 ○蓮の根 ○蓮掘 ○蓮の飯 ○蓮の茎

凡

冬

南薫

六

扇

一生

六月のなかばころ

沖津浪

日入

夕

一生扇

白き扇

扇

扇の風

○蜘蛛の油 団扇

秋

名

清水

六

一清水 浩々 清水

清水 清水

駒

野

暑日

芝迎 暑を厭ふ 相如山

八ツ手清 寺うら高の清のうちもとくも有 江房

暑日 暑さ忘れ 暑く暑さ忘れ暑さ

ひぐらし 暑の清すゞしさも 蛇の声 月夜猫 牧の一ゑ みつる夜

うむ をだまき竜 鉢心 ねやこ 里子

閑 涼しやさゝ村毎 ゝ 里子

納涼 夕涼み 朝涼み

立涼む なるき 心急ぎ 夜半 李下

納涼

行近六

うまや あもいさ 夕立 落居の袖 ○袖入れ 扇

露入れ道 鵜舟 月 御能 扇 ○扇

代の床 ゆふ川 秀句

風 ゆふ川 秀句

松 ゆふ川 竹戎 明智忠 網 家僕

松 ゆふ川 竹戎 明智忠 網 亀屋

一秋近 ○行基 ゆふ川 ゆふ嵐

立秋

七

一 立秋 秋の来ぬる日

七月 七夕の翌日 秋の来ぬる日

○朝寒の蝉 秋の来ぬる日

秋初 落ち初の声 涼しき風 ひやゝかな稲葉

凡 ちとときこゆる頃

処暑

八

一 処暑 名越桜 名越桜 名越桜 名越桜

八月 八日 名越桜 名越桜 名越桜 名越桜

○神入月 名越桜 名越桜 名越桜 名越桜

七夕の契 七夕のこと
陰方 秋の初風
寒き想 ねとるうら契 忌服の内
愛る船よそみ川七夕の年よ夜八ツ こそもの
夜の名もむそ〳〵 仲實
残暑 あさ強し 秋の初風 入るお寒
志の谷 月祢神 ○埋もの油 秋の設の色
もやう付 秋涼 もやう 油もや

七夕

蜩

蜩 蜩 蜩入声 捐のむそ〳〵○春 蕭
秋の初山 涼き秋風 山の夕日 夏人き
七夕 むこ星 松陰株 山堂涼夜 人
蜩の声 秋の名寄 秋風 秋涼 人
念 ひぐらし 蓮の浮葉 よむそ〳〵 涼く 蜩の声 餞
七夕 むこ星 七夕のうら 寄

桐

桐

一 桐 ひさぎ ひさぎ ひさぎ 万葉集 歌にも詠める清河原の霜の上 秋葉 秋の葉 注 和名抄 桐 漢語抄 桐 清河原 淺葉 青き 秋葉 秋の葉 注 秋 淡紫 歌にも詠める清河原の霜の上

扇置

十一 扇置　玉扇　扇の風　捨扇

十一 玉案　玉扇　扇の風　捨扇

玉祭

十一 玉祭　朝夕の志　竹ぼうき　吉塚

露

七一

霧

七月

一 菅の名 菅ノ真菅 歌ニよめる菅 菅ノ小菅 菅ノ
まき菅 菅ノ笠 菅ノ蓑 菅ノ
う 拈ノ菅 又ミだれ菅
○神酒 賤ノ術と 名ノ菅 養老ノ瀧 松ノ捐
野 私用 凡 ミだれ菅 ミだれ菅ノ渡
あやまり撰 ミだれノ菅ノ住ノ江ノ松 ミだれノ
ミだれ撰 ミだれノ菅ノまくら ミだれノ夜ノ
ミだれ ミだれノ菅ノまくら 菅ノ
ミだれ ミだれノ菅ノまくら 菅ノ

萱 薄

七

萱 秋萱 いと萱 刈萱 苅萱 小萱 こ萱
白萱 秋萱 萱原 一村萱 小萱 小萱
ノごとく 古枝ノ萱 萱ノ
○萱ノ 薄 ミだれ萱 萱ノ
寺ノ色 ミだれ萱 古
引古 山ノごとくノ小萱 萱
二十七 薄 付尾花 ミだれ萱
ノ萱 刈萱 一村萱 一村萱 一ノ
ノ萱 萱ノ萱 萱ノ

萩

萩　萩字もあり下萩　竹萩　万葉　萩の下風　萩の声　萩の音信　萩つゆ　萩の露　萩凡萩の事　萩凡萩の交もと　萩の葉　萩凡萩の青葉　萩の下葉　初萩　萩原　萩の下露　萩の下紅葉　萩の花　萩月　萩の戸　萩の庵　萩の門　萩の家　萩の枕　萩の夜　萩の夜半　萩の夜の夢　萩の夜の月　萩の夜の雨　萩の夜の風　萩の夜の露　萩の夜の雨　萩の夜の風　萩の夜の露　萩の夜の雨　萩の夜の風　萩の夜の露

女郎花

女郎花 をみなへし

立る女郎花 ○おく人の月 久家

立てる宿 おく野 ゆく駒

武蔵野 まち人 縁 男山

女郎こと みやこ 男山

女郎花 おみなへし

萱

萱下葉 小河 ○秋風 奥 陸奥 武蔵野 ゆく駒

萱下葉 小河 高萱 色 萱草 萱ノ下葉 萱川 猫

○秋風 奥 陸奥 武蔵野 ゆく駒

萱下葉 小河 ○秋風 奥 陸奥 武蔵野 ゆく駒

芥子の巻

十二 朝顔 女 朝白 扇 朝

秋日 朝 朝白 二 朝

今朝の朝

朝顔 青 庵 呂行 朝

青 白 朝

十三 牽牛 男 牽牛 男

牽牛 青 白 朝

十四 槿 男 槿 男

槿 青 白 朝

雨

○瑞雨 八月廿日夜 わを忘れ 秋萩原 悩しき袖 田面雨そゝく夜

○雨 雨 雨

鹿

○松虫ニ 男山 有山 ○玲虫 雨津野
萩うへ 萩うへ 萩うへ

芭蕉

忍草

○忍草 しのぶ草 何この草 しのぶ草 ○まくら 軒 しのぶ

忍ぶ 思の外合大うと 思ひ 同

一芭蕉 芭蕉布 芭蕉の葉 芭蕉の破れ

○秋風 いろ〳〵 秋の雨 秋の夜 秋の山 秋の水 秋の空 秋の月 秋の雲 秋の雁 秋の霧 秋の露

思草

一思草 秋 三月ニ引 ○油の煙 月夜 みまくも 音も 尾ばな 妹 わすれ草 ニハうんぬ 仲麻呂

秋の夜のさしろ

秋の夜のさしろ 秋の夜の語

初潮

司

○さえわたる月の都の秋

放生會 八幡十五日

○ちらつくや盃の酒 九重の内

○いけるをうる人 秋の宮中

弓遊

射

○弓はりて猶ひきとどめ月ぞ清き

初冬

初雪

初嵐

初潮

初氷

初霜

初雁

初鴈

初鴛鴦

初千鳥

初鷗

初鶴

初寒

初凩

初時雨

雁

みくしらくさの上の露の月の宵ごとに消ゆゝ今宵

の月 二夜ばかりおくれ入つゝ

雁 初雁 秋のはつかりの声 秋の末

一野分 野分だつ 野分の後の朝

○二月ごろ 夕野分 乱るゝ萩の薄 風よりおきて

よろづ虫の音 草 末の露本の雫

源氏の八子夕霧の大将 野分の朝の夕ぐれ

のやうすなどかきて 野分だつ 野分の後の朝

まことにやうやう 種のおれふすなどかく

雁

みくしらくさの上の露の月の宵ごとに消ゆゝ今宵

とくる夜ばかりおくれ入つゝ

雁 初雁 秋のはつかりの声 天津雁 渡る雁 春の雁

○二月 秋風 秋の海 曙 蘆 岸の

門田の面 舟路 抗 磯山 深草 紅葉 秋の森

衣摺 三室の山 人 真砂地

鶉 鶉なく 鶉の床 鶉なく里

鶉 鶉なく 鶉の床 鶉なく里 野 真野

頃ケ迫 門田 秋の捐 秋山 笹 人の朝

鳴 鳴く 鳴の羽音 鳴く 鳴の声 鳴く 鳴の羽音 鳴立沢 鳴の声 鳴く 鳴の羽音 鳴く 鳴の声 鳴く 鳴の羽音 鳴く 鳴の声 鳴く 鳴の羽音 鳴く

君まねく夜 伏見の里井 猪名野

古 暁の鴫のそねぎこそ君こよなくまれ人も

それ行のうしろ姿も見えなくなるまで眺めやる

四十一 百舌鳥 そよぐ木の葉 尾花 虫の音

○古枝の萩 名草 尾花 一村薄 おもの花

林 しき拡野 そよぐ木の葉 秋の野 四十二 虫の音

そよぐ草葉 露 八重葎 四十三 人生

百舌鳥 鳴のうしろ姿の見えなくなるまで眺めやる

四十二 長夜 ふりくし夜 秋の夜

○物思ふ床 老の寝覚 よもすがら 月

待よふくる袖 果なき夜 千度 秋の夜

床の声 千度ふる 袖の涙 袂 うき

お 我ゆゑの涙の袖の夜

う 寝入 虫よわれきくそれ 猪名野

長夜

崇菜 一崩築 くづるる築 やれくづるる
○河多浪 浪さわく音 川波の紅葉 下す塵
田上川 なれ川 あ瀬川
名古 名古川 なる川 なる浪 なる瀬 事
平五
さゝ鮎 おち鮎 ○河波の月 秋のなり 冷しき
山川 うら枯の草 そこ名 宇治川
八雑 名所 名ある鮎の川柳 下もみぢ 女性 うらふく 主賢
九月 ふる日 梢の秋 ふる月 那王
小田切月 和里月 月

平六
上蓼 ゆで蓼 きりくちの色 よくうる蓼
○秋の月 あさ雁 雁夜 草垣 夜りしき
淋しきま 真菰 よるさきの宿 淺茅生 夜寒
かへすきよ 女の葉の閨 床の下 ひろ野
おきりくも 夜をまち秋の出まつ 声の遠うち ゆく 西行
名古 蓼つゆ 霜夜のさ雁 ふるうしき 秋うも 鶴人 後改
文 久々 飛ぶ雁 草の間の蓼 虫 虫の一つ声のうき 宿り 宿
平七
一夜捨 ふる音 捨や 庵 衣 ふて捨 捨蔭

菊

一菊　白菊　八重菊　菊の下
菊の露　朝霜白菊
菊月　酌酒　仙の宿　九重　山川の流　菊人
酒　山路　十六弁の菊　大沢池　笙野　大井
里雁　梅川　吹上　嵯峨　細代浜

冬 十月 冷 [淅冷] 十月冷 [霜冷] 袖も冷

すさまじ ○秋の岩根の苔 月の霜

霜も片敷 うら枯の草枕 浪の泊舟 まきもく

秋冬

一主 萬 萬のそうら葉 秋冬

岩根の萬 苔 草の庵 冬霜 秋の神植 凡の松冷しさ

秋冬

○秋夜を 秋さき やうやう

○秋衣 衣更 袖も寒 袖 春 衣

月の下風 ○の下 亀 江もる青 ○掛 鴨の羽 青

出る糸よる 霜 霜もまだ

冬部

冬

十一月

初冬

小春

神無月

時雨

霜

雪

凩

冬籠

炉

火桶

炭

埋火

榾

行冬

冬の月

冬の日

冬の山

冬の海

冬の水

冬の空

冬の雲

冬の雨

冬の風

冬の夜

冬の朝

冬の夕

冬の暁

冬の虹

冬の星

冬の雷

冬の野

冬の川

冬の池

冬の森

冬の道

冬の田

冬の庭

冬の門

冬の家

冬の市

冬の宿

冬の神

冬の祭

冬の芸

冬の遊

冬の食

冬の衣

冬の人

冬の旅

冬の仕事

冬の商売

冬の学問

冬の恋

冬の別れ

冬の悲しみ

冬の喜び

冬の夢

冬の思い

冬の祈り

冬の願い

冬の終わり

冬の始まり

冬の中

冬の外

冬の内

冬の上

冬の下

冬の前

冬の後

冬の左

冬の右

冬の東

冬の西

冬の南

冬の北

冬の中央

冬の端

冬の角

冬の辺

冬の縁

冬の境

冬の界

冬の域

冬の国

冬の郷

冬の里

冬の村

冬の町

冬の都

冬の城

冬の館

冬の屋敷

冬の蔵

冬の倉

冬の庫

冬の舟

冬の車

冬の馬

冬の牛

冬の羊

冬の犬

冬の猫

冬の鳥

冬の魚

冬の貝

冬の虫

冬の花

冬の草

冬の木

冬の竹

冬の松

冬の梅

冬の桜

冬の菊

冬の紅葉

冬の枯れ

冬の実

冬の種

冬の苗

冬の稲

冬の麦

冬の豆

冬の芋

冬の瓜

冬の茄子

冬の大根

冬の白菜

冬の葱

冬の蕪

冬の人参

冬の牛蒡

冬の蓮根

冬の慈姑

冬の里芋

冬の南瓜

冬の冬瓜

冬の胡瓜

冬の西瓜

冬の真桑瓜

冬の柿

冬の栗

冬の胡桃

冬の銀杏

冬の蜜柑

冬の橙

冬の柚子

冬の枇杷

冬の林檎

冬の梨

冬の葡萄

冬の無花果

冬の石榴

冬の棗

冬の椎

冬の樫

冬の楢

冬の欅

冬の檜

冬の杉

冬の竹林

冬の松林

冬の梅林

冬の桜林

冬の菊畑

冬の紅葉山

冬の枯野

冬の実山

冬の種屋

冬の苗屋

冬の稲田

冬の麦畑

冬の豆畑

冬の芋畑

冬の瓜畑

冬の茄子畑

冬の大根畑

冬の白菜畑

冬の葱畑

冬の蕪畑

冬の人参畑

冬の牛蒡畑

冬の蓮根畑

冬の慈姑畑

冬の里芋畑

冬の南瓜畑

冬の冬瓜畑

冬の胡瓜畑

冬の西瓜畑

冬の真桑瓜畑

冬の柿畑

冬の栗畑

冬の胡桃畑

冬の銀杏畑

冬の蜜柑畑

冬の橙畑

冬の柚子畑

冬の枇杷畑

冬の林檎畑

冬の梨畑

冬の葡萄畑

冬の無花果畑

冬の石榴畑

冬の棗畑

冬の椎林

冬の樫林

冬の楢林

冬の欅林

冬の檜林

冬の杉林

冬の竹藪

冬の松原

冬の梅園

冬の桜並木

冬の菊園

冬の紅葉谷

冬の枯山水

冬の実生

冬の種苗

冬の苗代

冬の稲穂

冬の麦穂

冬の豆莢

冬の芋茎

冬の瓜蔓

冬の茄子紺

冬の大根葉

冬の白菜漬

冬の葱坊主

冬の蕪漬

冬の人参葉

冬の牛蒡剣

冬の蓮根掘

冬の慈姑掘

冬の里芋掘

冬の南瓜煮

冬の冬瓜煮

冬の胡瓜漬

冬の西瓜割

冬の真桑瓜漬

冬の柿落葉

冬の栗拾

冬の胡桃割

冬の銀杏炒

冬の蜜柑剝

冬の橙搾

冬の柚子湯

冬の枇杷葉

冬の林檎剝

冬の梨剝

冬の葡萄棚

冬の無花果剝

冬の石榴割

冬の棗剝

冬の椎拾

冬の樫拾

冬の楢拾

冬の欅拾

冬の檜拾

冬の杉拾

冬の竹伐

冬の松伐

冬の梅伐

冬の桜伐

冬の菊伐

冬の紅葉伐

冬の枯伐

冬の実伐

冬の種蒔

冬の苗植

冬の稲刈

冬の麦踏

冬の豆蒔

冬の芋掘

冬の瓜蒔

冬の茄子植

冬の大根蒔

冬の白菜蒔

冬の葱植

冬の蕪蒔

冬の人参蒔

冬の牛蒡蒔

冬の蓮根植

冬の慈姑植

冬の里芋植

冬の南瓜植

冬の冬瓜植

冬の胡瓜植

冬の西瓜植

冬の真桑瓜植

冬の柿植

冬の栗植

冬の胡桃植

冬の銀杏植

冬の蜜柑植

冬の橙植

冬の柚子植

冬の枇杷植

冬の林檎植

冬の梨植

冬の葡萄植

冬の無花果植

冬の石榴植

冬の棗植

冬の椎植

冬の樫植

冬の楢植

冬の欅植

冬の檜植

冬の杉植

冬の竹植

冬の松植

冬の梅植

冬の桜植

冬の菊植

冬の紅葉植

冬の枯植

冬の実植

冬の種植

冬の苗植

冬の稲植

冬の麦植

冬の豆植

冬の芋植

冬の瓜植

冬の茄子植

冬の大根植

冬の白菜植

冬の葱植

冬の蕪植

冬の人参植

冬の牛蒡植

折

○琴 諸々 の人の座
露霜 もる木のしたくも
霜 うすく菊 黄
秋きぬと 移りまされる
一本の竹の表 枯
○村雨 冷 時
草の裏 袖の涙 宿
物おもふ袖 涙を
一本の木 ○木のもと 野山のそ
一枝 ○秋月 霜 か 山のタ 峯の雲 露の
庵の青 夢人 ○山越 滝 東山
源 ○雲 ○ 山なの雲 ○ 有
一枝 ○ ○ 泉 岩 時
○ ○ 一葉 秋
○ ○ 庵 秋月 夜 ○
当 森 ○ 田の小野 木井川

椎

柔木

九

晩秋

○秋風奥山山里秋の初め　擣ごゑ

晩田　霜人おくて田守　晩田の稲葉

○家刈かりもち田　むつらか

○麻の青きを　刈りきて沢うちあるくま迄　霧

秋風を　「の部を聞きて」　妻の杖

○三月三日　菊　杖そろく杖そろく　冬近き

○三月三日　菊　拾落ち　冬近き　時雨

十

霙

十月　小雪　初霜月

明朝　朝朝　朝朝　朝朝　朝朝　朝朝　朝朝

小夜朝　朝朝　朝朝　朝朝　朝朝　朝朝　朝朝

○連ねたり　義ふ　源山ゟ　帰る　麻の音

○うちつゞく　砧代　まつ

○ゆふ　小雨

十月　小雪　初霜月

霜

一霜　初春　朝春　夕春　霜月　霜夜　霜の声　霜の声　霜の朝　霜の夕　霜の月　霜の空　霜の声　霜の朝　霜の夕　霜の月　霜の空　霜の声　霜の朝　霜の夕　霜の月　霜の空

木葉

木葉落 暁よみくる秋 薄入桔の乳

朝 凡吹桔木の晴天雨月 照二水沙一夏夜霜

枕 窓をとく狂雲くきけ八弦 つま 琴 おもて

高砂の尾上の鐘は高きより 暁くらし 生屑

大唐土嶺山の鐘八高きより 暁くらし 生屑

とれ

もろ〳〵衆生に時のよさゆるし きけ

三 木葉 友行雲落 招 ひさして 木葉

春秋冬夏 木の葉の匂 木の葉の秋

冬草

一 冬の草 枯萩 草の葉 名

二 尾上おろし 山凡 霜 森 山河の水 網代の浪

山路 冬落ちばすみ多 月こそ新

○霜ふすき おそうあ 南の庭 色 山路の露

仙人の宿 羽 白き蝶 羽 仙人 但こそ形

二 枯野 草 野 野辺の露 枯 ハ 何もこそ

宮人の衣 枯 ハ 宮むもこそ 枯

くれの野原 ○秋の淀り

照 秋の月

野枯

十

鴈

○八月の月 霧夜 嘯月 雲井 海路
[illegible]の色 [illegible]田路 [illegible]
[illegible]原 須磨の関 [illegible]
[illegible] 真砂 月 [illegible] 浜路 [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] 須磨の関
[illegible] [illegible] [illegible] 貫之
[illegible] [illegible] [illegible] 重昌
[illegible] [illegible] [illegible] 須磨の関
[illegible] [illegible] [illegible] 源氏
[illegible] [illegible] [illegible] 霧

十

鴨

一鴨 和名加毛 生田川 尸氣 俗云 小鳧 おなもの 鴨

門戸を守るに似たるゆえ門の字を用ゆ

山石榴のごとき池 生田川 尸氣 俗云 小鳧 おなもの 鴨

羽色 鴨のごとき 鴨の羽色 鴨の羽 鴨

あの床 鴨の寝床 わざと作る 鴨の巣 鴨の

○入江の真小菅 鴨のすだく入江の白浪の

十

風

炭竈

網代

大原山小野の里

鷹狩

千
朝朗くらの河辺の大い
磐
田上の網代のもの
十二

一鷹狩　什一鷹狩

狩場のせに　狩倉の維ま　○手拭の袖　砂潤
みそ　山の道　雲隠る山越　草枕　名の草
う野　鶉いて　雲隠る　大原　行幸
人　甚の里　小塩　維ま　狩人　狩衣　狩ま人所
宮よりお塩のよ　狩倉　大原　行幸
此の人代を狩の河冷
氏へまいてもう　時　大原
新後古
狩ぬのそら　上　於

十二月 月をまち
月の雪 月の歌
夜舟の浪 雪ふる志賀
十一月 雪月 神な月
冬之月
氷 薄氷 朝歌 上歌 歌ぞめ
うすごほり 薄氷
とつる歌 とぢまり
ふる歌 ふらく
○逆さの月 青き月
○冬の月 月の雪 霜夜の月

氷 土産 漢
一 氷 ふりし志賀の浦 幸崎 やの池
一 氷 ふりしきやわつくとうち渡る人 谷川のあり 肥後
一 氷 おしてゐる口にしてうち日よりの 筑後
一 氷 みそれおしてくるの花とちる人 後藤
一 氷 川ぞひの柳つゝ車ゆくすゝ歌 一昌房
一 氷 おしてからくりをうつ海よ出口もうつ 鴨の緒 弘昭
一 氷 ふりしきやせ 世界 つゝそ魚のあぎとをそ
氷 氷の川 氷上の松のあらけ

雪 十

霙

十三ジル

一霙　みぞれ　ふりて　霙降　降　みぞれ　ふりて　霙降　降

○ゾロ〳〵竹の葉　月をまち　松の葉　雪をまち

伊勢の海人の作歌

瀟瀟　はら〳〵たる　山路　掃　掃きそこなひて　消えぬ雪　雪　雪

十四

一霙　霙降　たそ〳〵る雪　むら雪　霙　霙　霙

ちる霙　霙　霙　霙　霙　霙

○そよ〳〵ふく風　霙　霙　霙　霙　霙

降　降　降　降　降　降

雪

十五

一小夜ふく　下雨日　加賀の作歌

過日試楽　雪　雪　雪　雪　雪

日暮　人のくるまも　小忌の袖　雪　雪　雪　雪　雪

吹　雪　雪　雪　雪　雪

ふりくる山　雪　雪　雪　雪　雪

雪　雪　雪　雪　雪　雪

ふりつゞく　行雪　雪　雪　雪　雪

雪　雪　雪　雪　雪　雪

月　ふる雪積　雪　雪　雪　雪　雪

雪　雪　雪　雪　雪　雪

詞

竹林　雪　雪　雪　雪　雪

雪　雪　雪　雪　雪　雪

初冬　初雪　雪　雪　雪　雪

雪　雪　雪　雪　雪　雪

春雨

武士の妻　雪　雪　雪　雪　雪

雪　雪　雪　雪　雪　雪

十九

一小夜ふく　下雨日　加賀の作歌

過日試楽　雪　雪　雪　雪　雪

日暮　人のくるまも　小忌の袖　雪　雪　雪　雪　雪

吹　雪　雪　雪　雪　雪

捐

○河東をけき　者
神ま　改河　物の青
年中
子ま振かをの河凡山わの
ま　神よ表名約きをみん　文
山つの狭み巨川つ教みて
年間
一間くこ　ありくこそ
○山蛾の着　大泉　そき
王　　蛍衣　夜の会衣　神つ会衣　麻つ
○そきこ國　霜の夜　中の狐　多ノ徳

燎　土

秋　示

王
神樂　廿燎
十二月　去待川　初ノ
三冬月

閑のくよいくよおおそ
神ま　神ま　神ま
燎（ヒタク）俵　燎の乳
神をふうそよ
うたよ　ありそうたよ
○かうう八　春をう月　天津星　みたきれ

（表のの八　里神ま）
（燎と斗と神　表の）
（ばらうのうそ　陸神ま）

埋火

二十三 埋火 埋火の下 圍ひ埋火 消埋火 埋み火

うづみ火 ○ 冬の夜 霜夜 うづみ火 霜の下逕 油のうづみ火 うづみ火の心 うづみ火の下めり

古 霜ふかき夜半の埋火 貫之

古 霜ふかき神なび山の埋火 後拾

古 神なびの山もあすこそ白くみめ 後拾

古 子の日する神の小松も遠からず 師光

古 うづみの油も今夜の神まつりせむや 師光

古 燎火 池の氷 埋み火 池水 神木付火

梅

十二

古 梅の眠 うづみ火 宿の梅

古 山里は物のあはれの夜深火も板ぶきかこむ冬の梅 定家

古 うら旬 山もと の下の埋火 春をまつ 定家

二十四 冬の梅 冬深梅 冬木梅 冬木の梅 冬待梅 冬野の梅 咲ぬ梅

年の内梅 春待梅 冬野の梅 咲ぬ梅

○ 春の日 春くる夜の朝日 春待つる 南の窓

古 春近きる人の音

古 梅のひもれもみさを久留のわ

年内立春

二十五

一年門立春　○冬　冬至の初

佛名

三十六

一佛名　佛名会　三世の佛の名を唱ふる

灯　古寺　檜皮ふく　屏風

荷前

十二月　吉日を擇びて　奉

一荷前　十二月　吉日を擇びて　奉る

追儺

一追儺　追儺の夜半　鬼やらひ

毎日　大内にて　桃の弓　葦の矢にて　射る

慶雲二年十二月　始む

○投る所の灯　その夜

むいかの夜　灯まきこぼす　大内

歲暮

十二

年中

今日　夜に入りて　雪降る

一年の事　付諸事　よき　まゐり　をこ

行く　年のをしさ　行年

年のをしさ　行年　とまり　夜

○佛 唱ふる なげく 恋の男 連ふう ふらふら
きみ 行まといふく 通 後の私ごり
古 河ぐちこいむらうて 比丘尼 春道列
松林 白妙の 九の髪 降よふり 雪のもとりつく 樹
上 恋之 終

恋之部
十恋 妹恋 いと恋 参とふ 恋便て 恋草
○みをやし人 頼び妹 そろ文 おもをやき人
涙いとあるけまこむー やつて学いうる
人寄まる ふうかいうみ 仮
○為しき 仮ひとの 為 あれ 法ふん 都の方
遠き通 捨 ○為しき 仮ひとの 為 あれ 法ふん 都の方
古 いとそ為しき 仮ひとの 為 あれ 法ふん 都の方

思

待

一待 待夜 下待 待乳 待人 待侘 せこ待
待あるく 待あるく 待あるく 妹待時 待馬入うち
待ある〳〵 ○ 閨の灯 そゝぐ涙
心ぐるしき 心いらだつ 夕詠 琴 袴着
塵拂 床 笑 揉 衣上 垂 初入 ふさぬ
むすぼれる 袴の ふるき 床は涙の あまる
真まの 八ツ ものを

恨

恨 情能ぬかなしさに秋の田もみ
恨 君待と国もいさよふ月の
恨 新恋のきらゐ
五 一恨 恨のきらゐ
いでや恨 こゝろの恨 恨能 恨ばらゐ 積恨
○雅面 ゆーまで かこち
心うし 長き中 日数のおもむき涙 そゝぐ
物のき 恨ずき君 恨のこと

契

大 一契 契玉 わすれ
ちぎりの契 かたき契 我契
○義 いとせ
契こゝろ中 新恨

仇宴

千葉氏を攻めて之を滅ぼしその妹と
嫁於
栄とを娶りて之を納れ其後
一わらべ栄と八〇一妻
程八人ばかりつどひ
心恒酒令下物
きゆるあ
わらひ

新婚

戀

別 別路 おの袖 別れ 別れ
おろきぬく さぬ別 別れ
なるう音 憧れも 涙 袂 絶夜 語残
うちも 月 冷 下の袖 おきうく行冊
旅之袖 枝も 玄の巣 道のつろこ
渡 渡 (ゆ)
ひまよ

忍

雑面

一 忍 忍ぶも 忍ぶ
岩 岩ぬ 岩 忍ぶ
忍ぶ忍ぶ ○ よく
なうく 中 みぬ 併 人 音
袖 袖 袖
一 忍 雑面 雑面人 雑面心 雑面

文

小文

○涙ぞまづきて　恨　消ぬ今　神ぞ
そそくなきこそものもし　み
声あはれなる　松の　中の関も
歌ぞきこゆる　月　三つ　雪
もしや海氏入江なくて
つまるところ
まよひそ
一文　一まきの文　文の
なりぬ○み
笑　猶ある人　一つの

仗　戀

小仗

久堅の　天
雪　浪の
ふる　雨
一仗　松の仗　仗の
○文　降る中　来
舟　今朝　中
むらさき　山
動　ぬれ

後朝

涙

一云名 おもきぬ なきぬ名悪涙も
いでけきやしてしく一夜の美人 久を流とも方を雨
こそん おもとあるめ 世ようしき人かた涙緑
今七月の月 名和をて句作者
古
涙川の君も無郡 涙
一云 涙 涙川 袖もく洞 袖の

戀

あるし夜 ひとしき涙
○浪 なけき わしあるしき別 待る夜 主名
まの金飛 物の主 うきる也 う云ふく 歌人の衣
衣 玄法 姑き 事 主名 注ふる 麻
丁 子欲をの涙なうり
涙川人 注ふく代 我 主 八神
おもて 世八々 しあすをねりむ
紀 紀やきき訳 くされ 衣のもき
仁馬

夢

十七
一夏子 わくらは美 はるの人 美の曙路
美のうら 美の浮橋 美雑 むすま 美まつ
青の夢 都の美 人つま美 みくさ美 三美
美の行 〇おとし孫 物思ふ旅 女人 旅孫
待よのくる夜 まつの雨 月 庵 胡蝶
わたも 美の夜 かりそめ人 告ぬ 屏
風 庭房
白雲も死ぬし 世そて 人のやうな人
夢 女人 〇夢の夜八 〇夢のうき橋

無言

十八
いとけなき中 いとけなき恋 わくらきつま恋
歌のいとも 落人 形見 そこひ
うしきづらする 井底の蛙のごとし
十九
青さくの中 恋 狐つま人 美夜もすがら
まよひ恋 人のおもひ
何をうつつも 灯のもとに

旅衣

○こゝろさき契 そこゝ別 旅の宿 泊舟

野上の里 三嶋江 難波江 淀まで

川の風 浪の音なれ 旅ならぬ

主 いもとしも 妹うしの道 妹うし行

○こゝろ中 行袖の露 多鳥路 逢坂の関

主 こゝろ底 旅の空

妹 こゝろ底 旅の空

○こゝろ底 旅の空 その夜の夢の河風 こゝろ底 旅の空

新枕

戀

妹

山城の みづの水上 妹とくき 井手

主 こゝろ底 河水のちゝ 袖こそ 宿の月 袖

妹 こゝろ底 妹ねはやと こゝろ底 旅の空

主 こゝろ底 やどり住 ○涙 おく露 旅の袖

戀 初音 聞人のなきむせぶ

新枕 かた敷 新枕 かた敷 新枕 かた敷 ○三本 待夜の

語ふ こゝろ底 いもとしも こゝろ底 旅の空

こゝろ底 旅の空 いもとしも こゝろ底 旅の空

春

怨

戀

伽

生さる人 墓名 中川の宿 (朱印八小山)

うむまる人を拾ふてこゝの

源氏中河の宿へたれな小君う車よ寄

し行のまゝて蝉一ハ

を源氏うむまのこと

まゝむよこ庄は

あゝ式の上の十半

二伽 今伽 面記 休

□ 焼二する

叔 倉 人 誰 小車 乱髪

癡

左才

伽

伽

一百方 ゆうしき百 門右 辻右 々

けう 々 百。定

日を撰 自途 やう

一物 ハ 伽 乱髪 落消

生まん 小 行 再の初

[illegible]雑[illegible]髪黒の大将のおもの方[illegible]
[illegible]ありきてハ[illegible]何よりも[illegible]

侍ふ[illegible]いくけみき[illegible]志 都人[illegible]

[illegible]夜のふしもの[illegible]

[illegible]近[illegible]ハ[illegible]人男の山[illegible]

[illegible]近[illegible]ハ花[illegible]人 情[illegible]

[illegible]近[illegible]ハ わ[illegible]人 物[illegible]

[illegible]彼 よ[illegible]

[illegible]ける情[illegible]宿

[illegible]一夜の契 媒[illegible]

[illegible]親 [illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

情

惚

倫

癡

慕遊心

法乃師 ㊀湯之名
[illegible]
一暮春名殘ハ別入抽 ㊀尾上の桜ハ入初ル名 宝
君舟 旅之人 関ゟ入 夜の船ゟも 今月
ぬぐ衣 帰ル 菱む 情し心 雪の
一ゆくらふ心ニハ新 ㊀ 下汲 わらは笑 ㊀月
一ゆくり 久の ㊀ 語る笑 むしろを
きつり月恨 涙の ㊀

慰遊心

一ゆくらふ心ニハ。落涙 ㊀ 独居 男泣
一琴の音 待人今 ㊀ 夕 うき ㊀月
一ゆくり ㊀ ハ。わらふ笑 わらひえよ 乃ちら
はらふき音 ㊀ 人 ㊀ 名 ㊀月
一通路ニハ。妻子人 ㊀ 舟 ㊀ 森
一通路ニハ。妻子人 ㊀ 舟 ㊀ 関守 妹ら
うつり ㊀ 小車 ㊀ 青 おつる
字治のわたり 旅の月 本 運ハ真栄

猫猫

名月

月光

影法師

戀

歌

十三 ゝうきくさをバ○身を恨ひる 教之后

みくりの独り笑 落

紅の涙よゝき袖のうらをわさみ

是を源氏の八九子ゝ宮氏ゝうこゝ八の中将の八ひすまを

井の宿を契りの心をめりもと

ゝれとやすの心てゝ〆書方のよゝみのうとみくりの袖く八

ちぎりのお衣書 教之后

十二 ゝうきくさをバ○身を恨ひる 教之后

みくりの独り笑 落

紅の涙よゝき袖のうらをわさみ

是を源氏の八九子ゝ宮氏ゝうこゝ八の中将の八ひすまを

井の宿を契りの心をめりもと

ゝれとやすの心てゝ〆書方のよゝみのうとみくりの袖く八

ちぎりのお衣書 教之后

十二 ゝうきくさをバ○身を恨ひる 教之后

みくりの独り笑 落

紅の涙よゝき袖のうらをわさみ

是を源氏の八九子ゝ宮氏ゝうこゝ八の中将の八ひすまを

井の宿を契りの心をめりもと

ゝれとやすの心てゝ〆書方のよゝみのうとみくりの袖く八

ちぎりのお衣書 教之后

十二 ゝうきくさをバ○身を恨ひる 教之后

みくりの独り笑 落

紅の涙よゝき袖のうらをわさみ

是を源氏の八九子ゝ宮氏ゝうこゝ八の中将の八ひすまを

井の宿を契りの心をめりもと

ゝれとやすの心てゝ〆書方のよゝみのうとみくりの袖く八

ちぎりのお衣書 教之后

十二 ゝうきくさをバ○身を恨ひる 教之后

みくりの独り笑 落

紅の涙よゝき袖のうらをわさみ

是を源氏の八九子ゝ宮氏ゝうこゝ八の中将の八ひすまを

井の宿を契りの心をめりもと

ゝれとやすの心てゝ〆書方のよゝみのうとみくりの袖く八

ちぎりのお衣書 教之后

世捨

一世を捨ること　釋教

第十三

一下の句ゆゑ心下汲。雜面　恥ら入　なくてまゐ

昔 昔 昔人 昔語 昔慶

昔とかく 昔ながらの 昔の夢 昔ゆかしき

昔人 昔語 昔慶

昔ながらの 昔の夢 昔ゆかしき

老

白髪付齢

むしろ旅人命 九の世 九の枕

齢さけて 齢ぐき

の初見やめ仕へ 子の竜る宿 理大のか 昔

友なき男めぐに月 思ひの玉 外なの世

淋しき恋 更と ぬ 読の 営 松 花る

とぶらりて

古 老らくの人 古 人 古

古 昔かりそめの雨と消なんと 俊成

古 五月待つ花橘のかをかげば 伴

いにしへの袖のとこきてし返者今よみすらん 人

古 住こそ月見うそやかの 師

日みそへく及のつりてみはこのいく遠き船

古 年月はさへ会とも石上ふるの 河内

古 及ぶ秋まで一村雨 分 人 行

古 めぐりあはむのまでや命 人 業

古 折もちかうむるの人今はあらじ
新古 我の浪越ゆる時ゆきかふ
四 一個家ニハ○淋しき心
とどまる月もとみぬ
浪漫の奥 柴の戸開 里の雛 狩場の伏猪
君の世都ぬ 世代捨ん 頼るべき男
凡 旅ごろ浮寝よすゝ古人甚深
月 山寺の鐘もくるゝ程 坊人まどろむころ 眠

十一 一軒毎ニハ 涙ぐみ猫 谷の戸 松の一竜 捨一曲
古 みるめ人そむの夜よなりぬ 苔の衣
撰 君のこゝよ旅路とそれさいと 遍昭
六 一里霧深み袖ニハ○君ならぬ 夢ニ昔 法師
寺 宝の戸 たゝ 流人服のこゝろ
世ゝいふ 法とな 旅
掻つゝ 袂をこゝ 谷の戸むこゝ
家を出る 小雪 小町 奥 吉野山 岩の奥

小野小町が三の女乃婿君に母よ
とそれのむして四十九日乃間ハ
ハすこ袖をきるひ
入日こんまにそうふくも袖よりもやまうく
もし源氏のれうこ衣着
みそめの衣ぱきるくこ
れのよまうくこわそこ
四十九日のあくるふ

衣に八〇いとも 涙乃袖 山賤 海士人
きりおまへ衣ふて衣着 涙ぐり 籬
ふ

衣ぬきしくきのてなりまの世と
も 袖の乾ふ人のれうこ
いつきとおつそ衣まひ
くに袖しうも

衣ぬかけき秋の山人小屋の
伊勢乃海よ 袖 乃衣着ふ
八こ人ニハ〇涙 袖
柴乃烟 苔の袖 朝のこ
乃 死とろ今しハ〇涙

百夜も通へ 歌を送る 霜よ雪よ雨風も
かさりそてつくつくと
もゝ八潟の水母相事のまゝのうく
きみをおもふ心やもとるこゝろ
古塚に 松風
海人の舘 まつ浦 生田 そゝの落
舟路の旅 道 舟岡 深草
草ゝの原に 古塚 猫の額 生田

新古今

十三

おうとの入道 新勅撰の松は雨ふる 山のすゝしき

あのかたへまかりそうせさうなる所よまんとて

えんの仕大ぢの出うこ指末生ふるくれうまつ

まつ人よりうへよりまつの夜ふけてとよ

よくうたふうたひのあとのつゆの落 なの世ぞもよ 朝夏

うまごゆゑ物の性の名 根のまゝ ふるいやまと

朝日まつ夕日まつ夜ふけてとよ

後法 ふるき今とそうまれ別まつ人を治きまれぬ仲

新古今

十四

朝ぢを何人ともなくそうのひと人ともしらずみそうの僧

後中うの今もとて通そもしこよもぎの秋の夜を洞の

春こその義もそうすゐ寺かりよりつく梅をやうく

三位源氏のいあそうまよはるくあらせうそ

前大僧正慈円

あすまでの三室の山岸の根の草 何おくて世よ片うが夜

十五

親こハ○あとの奥 うそうそ弥 古塚 ふるむの袖

佛 宝治の今舎りまも明石浦 ゐる神ふる人

歩の奥と吹ふ

斤雲山

述懐

子児

子をもつ人は、捨てあの世むつまじき契、今この今、仏に成法書き写し、明石の浦、大井川舎利会、猿

寺

巡礼

○説法　行の巻

一生懸命に修行をつとめ

一生涯の行を終りて

一生涯　古寺　霊山寺　禁峰寺　寺入寺　寺入寺

一生涯　古塚家　古塚家　おそろ併

一生涯　夜船の荘子ヲ　帰ノ亀中ニ　世主ノ　武蔵野ノ

宝

釈法

○説法　法の巻

一生涯の行を終りて　仏の御前に　蓮華座の上に

御浄土に往生する　極楽浄土に　阿弥陀如来　釈迦如来

一生涯　法の場　法の灯　流法の一念

一生涯　法の巻　法の灯　流法の一念

一生涯　法の巻　法の灯　流法の一念

一生涯　法の巻

釈行

[illegible]
[illegible]の家そ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

一夜庵

俳世

年の暮泊瀬 高野山

一夜の竜ニハ○ひむかし 法の灯ひと二間仏井

筑るまうひの山 宇治のくさん

一代ハ二世ハ○佛のみ名をとなふる

四条涼のまち 宝を出す 脱起 春入やよき雪

春のふと、とりぐ〳〵れの事とそうぐ〳〵なの世と

ゆうらんと春くれと書てとうぐうとひと

神祇 旅之部

神宝

一神 神道 神路 神社 神宗 神事 神代

神の道 神のよ 神のまの 神さびて あがしら神

しの文字 社 鳥居 朱のむ酒 しめ

引板 ぬさ 幣 白木 ゆふ 星

燎 うつ 榊 三輪 御祓 大原 春日 日吉

二文 六九 文路 宮古 文相 文人 立花

迄 古人 宮所 ○琴の音 四方拝 神と

六月 大祓 私 凡 むの三神 うつき

社

まき木 榊 高圓 吉野 春日 大原 小塩山 山榊
ゆふ 榊葉 榊花 る羽 榊葉 榊葉 榊葉

一注連　左の繩　注連入の繩　注連入の

神

○十一旅 旅立 旅の袖 旅衣 旅人 旅枕 旅ゆく
旅路 旅の宵途 旅の空 旅の夢
○同送り 同晩 駒 馬の餞 柳 やつし袖 袂
舎りの気 野山 車

旅舎

十一月廿五日 雨 相坂 淀川

廿六日 都ゆく君のあとなきつまと
光八年勢物語に旅の人今西つ方
さくゆく君のあとなきつまと
光八年勢物語に旅の人今西つ方
都ゆくまれとも
都ゆくまれとも
都ゆくまれとも

関

関　関の戸　関の板ぶき　関の杉むら　関
関越う　関の宮　関寺神　関の茶や
○遠さうな古里　板村敷人駒　るの声　里よ
人か夜わたき道　かり枕　清かのかや　相坂　須
の浦　自河　三栖　本橋　清水　不破　冷泉
関吹　名ある須之の浦八行里
捐坂の関人関寺出てみよしまや　ゆもの絵き　逢坂
妹之ゐる蛛のすまひそる　人とみその関もる　逢坂

船旅

うら人のまこぎ行く人河口の関のうみおさまれかり　住源
名古屋の舟　西
○舟　浦舟　沖津舟　夜舟　千舟　百舟　多舟
渡舟　大舟　小舟　艾舟　千舟　百舟　多舟
漕舟　さし舟　引舟　苫分舟　ろこぎ舟
高瀬舟　ふね　ます　捨小舟　汽船　雑波舟
舟楫　舟人　まおりあ　舟　舟　舟　舟
いそり舟　釣舟　池の舟　舟の梶枕

羇旅

○浪八丁の声　海辺の朔なき　深江ゆ
左迂　渺浦までの月　池の一茎　あり
志賀　いかるがの○泊舟二　暮く浦さき　海松
の月雨　わすれ浦八　猶まち友　こそ
てこそ侍りけれ　夜半の鐘声　おぼろ歌ドアリ

一駄の行旅　いそじ駄　なりも駄
しく駄　駄の足音　駄をそろへて　ふみ駄
そまく駄　あと駄　まくし駄　うち知駄

羇旅

一駄　駄　鳥の
しき越の関路　露ふかき　山石根の道　清水
名乃山越　向ひ合り　遥り　狩猟の野路
初雪　相坂　佐野の渡　東路
雪坂の関の名ふたつ　山ふところの駄　三遠
駄　駄をそろへて　久方の月の夜の　更行
駄　駄　都をおもふ　かりね
枕　一夜寒き　日数かさなる　旅の浦　玲瓏山

旅路

越山路

伏入作夜入中山。
岩枕二
○松風の枕ともよ　浪のまくら
ふるさとに　ゆめをもとめて
道遠き　駒もちやめり　枕山
明日ゆかん　雲の岩根も
一越ゆる山路　付道
市路　都路　玉路
峰廊路　辻のぜ路

後撰

[illegible]
冬河をわたる時
冬河をわたる時
旅枕　草枕　露枕
○岩根の床　泊船　中
松の下風　袂の露　旅
ふるさと　偲ぶ夜　風

●道
やうの道中道
越る山路にハ
里も遠き 油の気
未しの油 業人
降る雨の音 志賀
春くる山路 雨こそ
雨ふれハ○油

出撰 草のおしく 小章
(小古) 雨ふるや 秋の景
(八) ふるくうのやうに
(二) 雨ふるとふるにハ○雨
(九) 雨ふれ 胡粉
山 世おりし
(小古) あすうつ
(小古) 社
(小古) 雨ふるの

山

○山類

一山

一山

一山

岡

岡 岩越 岩通 仁岩
○田ゆき里麻草枕秣(まぐさ)為萩原も旅人
真木山岩代 こと野 住吉 明石
岩代をいつ移りてか国栓をみそめし人 妻望
こと夢の裾のつゆ吹きわけし草もなまめきて麻やこしとる谷
谷 谷の戸 谷の底 谷ふたり
谷ふけ谷わび谷の細谷のうた

森 山

○林 山の永岩根 苺地 苺生き
林 杜深 望
祭りするとき月新月倩きまれ人 吉野 小倉山
苺 苺の系 苺の外人 苺屋の為の
苺寺 苺の里 苺川 苺川
○里の烟 指人 松原 苺花 麻 萩為 真菜
山まの名岩 火葬 吉田 玉岩 そびら山

凡木の乏 木實落ノ高城 小倉山
雲材遥ニ 大門の苔階の雪
旅人の袖ふき返す 夕日かな 芭蕉
杣 杣人 杣方 杣ひく 杣山 杣川
○ふみ山 杣ろ 杣原 杣ゐる山
山川 花 杣ゐ 杣ゐき 杣ゐ 杣尾の山
三輪山 田上山

瀧 瀧の糸 瀧の白糸 瀧津 瀧浪 瀧淵 瀧川
瀧のうへ 不二瀧 瀧のうへ 瀧川 瀧の糸
○岩根 遊ぶ滝の 瀧川 流る白糸 糸上 瀧
杣法材 その泡 蕊ある竹 袖の涙 滝水
古寺 高川 布引の 広瀬川 吉清 雨そそぐ 白河 那智 雲雨

浦

水

渓

●鳴渓路鴻　志賀入海　住吉入渓
　歌　山の端よりもち出る夜半の月　まみちのくの雪見のふるさとかすみきてもり添浦八重
●渓付鴻浮洲　雁　渓風　渓傳ひ渓
●鴻八十鴻　百鴻　沖津鴻　鴻山鴻　鴻飛　鴻法
　渓風　鴻傳ひ　雁鴻　川鴻　洲乃上鴻　池の中鴻
　鴻手　鴻ねじ　遠鴻

水

●遥　干潟　汐干潟　潟と云　遠干潟
●洲　白洲　洲崎　洲
●灘　瀬　かり路　湖の汐やき　湖の捨舟
　渓八真砂　松　見むろ山　霧　谷やみ
　汐土　鵜　汐松明　舟流す　筏入る　楽しき浪
　舟流す　浦まの月　海底の舟　伊勢海
　雑波　住吉の浦
　遠き里の渓も月かげ　千代の松　寒葉

磯

支 磯の濱ゆふかすみ松浦潟あさこぎ出つる海人の釣舟

日 春ふる漆の沖の白波

新古 芦のやの灘の塩やき

十三 磯 磯もとゞろに磯傳ふ磯かくれ磯浪たゝば磯入わたる海磯そそぐ岩ほ磯もとゞろに磯入浪の沖松が浦舟 衡

名 岩ほ松 ふる浪浦 垣波袖浦 新 續後

江

江 入江こぐ舟江

○約舟共入江濁江濱江こぐ舟船浦路 人住村

衡 月 名所 路雜波 この海 住吉

新後古 濱風 沙 里 松 法 人 人の 波 よる 月 水 春 秋 朝 昔 思 古 昔 日

漾水

漾 漾江 漾川 漾人の舟 漾舟 漾田

汐

○泊舟　芳年　丁ノ孫　御汐　汐入　浦の名
　苫田稲　浪ち入月　河浪　雑浪の浦　手遊入海
古　年毎紅まそ子ノ代毎河漆や秋のそち歩人　貫之
又　あ荘の風入漆の流うちや荘海てそ新人　元宝
其　汐　ま汐　ま汐　汐　汐　汐　汐　汐
　汐やく　月の出汐　衣汐　朔汐　汐みち
　夕汐　沖時汐　分汐　入る汐凡　汐わむる汐
　ま干引汐　汐凡　汐路　汐を　汐ま

水沫

汐時　月の入汐　汐
○浦凡　浪入音　松風入　久ま汐　干ル
　守田稲　ま久ま　ま久ま汐舟　ま久ま　舟
　そろく芦ノ　真砂地　入ま系
十六　泡まるまて　清ま入る　沖の白洲よ　集やあらん　国信
十七　凡にる　浪夜の　稲入夕汐　ま荘よ　それの月汐　ま捨舟　力家
十七　浪付る。　みと。　そろみ。　わん　さく汐　入ま汐　浪汐
　系汐　入汐浪　来よ入る　浪　山石波　あざ松　浪汐

立浪 行浪 さき浪 白浪 浪の花 ふく浪 入浪
川浪 やまと入浪 あら浪 荒磯浪 井ご手浪
越ふる浪 沖津浪 浪人 池の浪 浪の羽音
浪のこゑ 浪のよる ●氷 水澤氷 行ゝ水澤氷
岩根ゝ 岩ゝ垂れ 雪ゝ 流れ ゝ積し
ゝ上 さゝなみ 水ぐるま

さゝなみ ●みと みとはくし みとをはらふ
みとひらく みとをやぶる ●ふゝみ 井ゝ氷
ゝのこゝろ むすびふゝみ 紬ゝふゝみ 涙ゝ
●泡 ゝの泡 浪ゝ泡 ゝゝ消る泡 ゝゝ白泡
ゝゝあわゆき うたかた 泡し

浪 二八〇 ○ 八雲御抄 沖津風 浦 浦
一ノ称 苫ノ上 御 袖代 舟 泊舟
白ヤラ 尾モ 白ヤラ 稲葉 花ノ瀧 池ノ水 海
古 ワタツミノ イロクシキヲ ウル白玉カ浪ヨリ出ツル泡ノ玉
古撰 クラベヲキ トヨミタル歌ハ川浪ノヒビキマデヨスガヲ要之
新古 玉ノ海ノ玉ノヲ川浪ノ八入ヲ染ル沖津白浪カケテ
古 ミル海ニヨセクル浪ノ数ヲ見ン 伊勢
文 ヲシナベテ山ノ上ニ越ユク風ニ 従房

ヒビキ 住吉ノ浜 難波江 ヨルノ一ノ舟ノ
新 住ノ江ノ松ヲ夜ルヨリ待ツ人ヲ 相
難波ニヨセクル蜑ノ為ヤ
為ヲ思ヒヤル 長
ミル海ノ如ク 住ノ江ノ
ノ上モ明ヤラヌ 千
一ノ上ノ名ノ
ネテ難波ノ
ミヤビ

海士

川水

水流

川波川鳴
河岸岡河の
こころもとく
風波波流一水
川水流くの
高波流
岩波滝津瀬水
流れ
門を

○岩根 沙 苔 ふみ 砌 柳 松 友 遠 友 海
生田 十二町 昆陽野 月 むしの 雲の
塩の内の浦 舟の中 冬 川
貸林 雪の夜 いつき 人朝 沢 物 松 友 多
そのかみ 雪 ふる 伊勢物語 河原の左大臣
人 院 ほり 砌 池 竈 ま 松 竈 友
吹 みち 池 ま 友 ま 友 ま 友 ま 友

もとみさと 池 ふく 二 池 舟 ふく
かめ 家 ふく
ふく 風 ふく ふく 池
そのの松 冬 池 浪 月 冬 雨 浪 ふく 真
千 澤 澤 澤 澤 澤 澤 澤 澤 澤 澤
○浮草 苔 菅 鴨 稼 鴨 入 稼
田蛙 田 蛙 蛙 細 流 ふる 野
ちいさき 竈 雪 ふる 舟 池 野

沼井

布一面の野 仕切
古葉 真菰刈 泥の沢う雨
古云 沢ふる 秋の田を鳥
三十二 沼 泥の古沼
○真菰 かくれぬ
田 蛙 むこいぬ 浅き山
今 小夜中 なくかはづ
三十三 井 山家 春井 岩井 石井 岩井 石井

井水

井角 角井 古井 寺井 井のうへ井 井 井 井 井
つ 泥の竜 谷の子 竹 寺 古沼 こる
蛙 田 氷 相の
古 むこの 古沼 重 清 志賀
古 沢 むこの 井 井 井 井 井 井 井 貫之
堤 堤崩て 塘 これ 堤の 畑きつみ
○川 池 柳 竹 川 里 取 岸
流の 田 鳴 又 人目 うりて

橋

水

川橋 橋の上 橋柱 ○ 人のかよふ 橋の
村の中道 垂れ 川への里 春秋ノ 高欄
流れきて 渓の名の 宇治川 松風ぬる
かつきも 布曝 竹ノ奥の里 虹の残る
杭ばかり 人をかよふの 渡かな 師旬
今ハ橋柱ノ杭ノ 1ノ川 渡ハてるる月
橋の板も 苔ひを 住吉
杭ばかりこれや 橋柱 長着ル 絵ごころ

槌

筏

水

井関

殿

棲家居

屋

家 作やう始家ら
○宿ニ 花の盛 折の景
色人の人 家の内 こす
真木の戸 人を待 場
ようとき人 薄一生
古
ふわもて人ふり宿
三三 屋 東屋 芦屋 まや
うり屋 柴屋 塩屋

居

くふのやかた屋 伏屋 苫屋
沖の伏屋 まきの板屋
○東屋ニ 淋しき雨 四入注 折くの梅 人生
物かなしび 神
雨屋 支
作屋 あすかの屋のうら屋
月 松人のまき戸のうやうちまち
川 月 千
物うき人の心遠 後拾
百三十二

芦庵

（三ノ下）
（イニワさくら）
（イニワさくら）
（イニワさくら

戸

門

居

庵

庵（ソウ）　草ぶきの家　草の庵　草の戸　草の門　草深き　草の緑　草の露　草深さ　草ぶきて　草の家
物ぶり　南窓（ソウ）　すみ　月を待　笑い　草村　物
松の下露　雪の朝　竹の友　箔　名月　朝日
花の客　高楼（タカドノ）　窓梅　半面　雪封　寒し
露重し　窓あり　縁　竹低（タレ）り
庵（甲上）　床（ユカ　ゆかハ夜ノ二ツモノ）　朝床　床の上　ひろき床　窓
よき床　庵のうち　塵つむ床

居里

里（ザト）　古里（フルサト）　山里　古里　里ごころ　一村の里
花ざと　里人
外山の里　この里　海士の住里　山陰の里　山辺の里

垣

ひもむ人里 子里
○墟ほの梅 呉竹 柴の烟 笑 絵の田
焼大 淋しき私 木葉 鐘の音 朝市
杉の葉青 道の柱 墨 衣搗 吉野
三輪 生田 春日 布留
古
いさゝ川 よふ 金
浅川の 名の老の松 伏人の里 やま
平二
一垣 土垣 小柴垣 袖の垣 竹わりの垣

居

一重垣 松垣 竹垣 竹の墟 芦の中垣 ちぐ垣 垣ね
垣ね 笆の 垣 ちぐ垣 まさき 霜の 垣
垣内 よもぎ 垣 妹り墟 垣ね 垣根 垣
垣こひ 芦の 垣
○植垂花 菊の垣 檜子 檀 葛葉
呉竹 黄代子 小田の居 家居 宿 里のちり
絶一通路 旁の色 よれの 神のお 麦 蜂
彩古 雑の菊 垂 八の 月 夜

海

海
おとしその色のりてふ秋のよるくもりやすき冬
夫
まろこあるよ大屋を一世の法
新六
くつまそやふすついちの
四十三
一篇　おぢ　をぢ　名　いよ　狗屋の記　芦篇
狗屋のすきこり　狗屋の暁　八　狗屋の袖口
まくを入もを　○みる花　名　忘　奥ふき国
海の月　声ヶ　鞠の湯　琴の音　宅焼
えのこり　行の柳　一小車　夜の朝　をの晴

庭　居

車の内　すりうり　香炉　峯　雪　扱　屋　着
伊勢物
風　家　男　女　屋　ヒ　ヒ　入　庭　ヒ　男
新六
年　ヒ　女　庭　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　男
四十四
一庭　付砌　庭の色　庭　む　庭
庭車　庭　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ　ヒ
砌の水　菊の庭　玉の砌　水の庭
菊萩宿　邑　染　庭の花　紅葉　松　柳
寺　初雪　霜　真砂　鞠　墨　胡蝶
気重　階居の袖　虫の音

松

植物　生類

一松　松原　村松　姫松　松の村　一松

山松　うつぶき松　岩根の松　松のうら根　松の上葉

松の末　松の葉　松の雫　松の雨　老木の松

松のさゝ枝　松の子　一本の松　浦松　松の露

○紅葉　落葉　竹　落葉　苔

落ゆくの路　鐘　古寺　古塚

海人　山類居所ホ　小倉山　住吉　高砂　唐崎　みや

舟合なり

新古　夜の雪ホトゝぎすを松つまで出ルを

支　峯入夜の雪凡雪をよめるそれもよし

各秋　九月雨のそゝむらきをみるなど遠うこの歌まゝり數ス

四五　十句雨　三すの句雨　初雪の巻

○砌　花のうてな　庭の

萩　落梅　柳　竹　一うち　宿　出入の壱

凡　山里ハ悌入りの声秋ハけそ

五　五月雨いさゝ小川をたゝりあそ句雨の小田をみるはるゝ

支　あり

杉

浦 みの小山 武隈

さいきの杉 さいきの杉のくまさかもとれる扇の風 桃賀

凡 凡河内躬恒 みよしのの山の白雪つもるらし 浦さむるよりの佳景 杉 公文

古 古今 おもふこと 思ふことなきやみのくるしきも 伊勢

千 千載 哀 哀傷 子をおもふ涙の色の有栖川 杉 お三

拾 拾遺 おもひつるおいさ五のまつりかな 仲

二 二 杉村 神杉 杉の村 杉之宮 杉乃

杉の木陰 杉の梢 杉の一本 杉の立木 杉の下道 杉蔭 杉

檜木

の河合 夜山 社 神垣 岩 苔の雫 雫も紅

関路 檜 檜原三輪 天乃香久山 相坂

布留 泊瀬 横川 山田の原 足柄

新古 新古今 雲路の雫もかたむく関の杉むら 宮川

円 円位 きりぎりす夜さむになく山田もる 杉の村立 あり

千 千載 小倉 小倉百人一首 八百万代の公地 妻恋

文 文集 まちわびぬ秋の明ぬ杉の戸の 家

三 三代実録 檜 檜つま 檜立山 檜立杣 檜のき 檜の下道

槙の古木　杜のそけ山　杜こそ
○奥山　寺　村数　何百　秋入久　杉村　杜原
古寺　薗竜の形　宝入戸　瀧の音　梅花
和泉　名の音　滝　吉野山　杜山　久尾山
大盤山　こりき山　宮瀧　おこり松
村古　村名の森　ともく　梅花　杜の名は春立の名所の名を寄
槙　槙のくたすくるる　気は井上けて　神
円　おくた寺　ほまれ　八ちり　杜山　深

杉原

杉原　山石狼のこりて　檜原之元　檜原の奥　杉
かくれ　杉原のそこ　○古寺　夕日　曇る日月
山峯　花　雨　竜　瀧　何百　松山
杉　杉　杜　三倫　初れ　尾山
屋　民　倫の杉　こ
ま　こ　杉　杉原　こいま

柏杜

（五）
一槲柏　あらの葉　なく此廣葉　なる八ひら葉
あらの葉　なく此廣葉　なる八ひら柏本
槲栄　廣柏　青柏　柏木　葉廣柏　和柏　槲の村立
○あの河内　葉　尚　凡　山や　翌　森　外面
涼しき軒　神山　榊　社　杉山
杉苔　久しきあらの葉ひろき柏　風　まさき　杉　神　杜　葉下
月　雨の上ふ　杉　雨　柏ふ　葉　雨

木森

（六）
一森　真木槲　森の一村　森の遠方　森下草
森の下道　森かくれ　森の木の下
○元葉　白　柏木　山本　鶏　る八ら
神社　先　涼　子規　蝉の声　蜩　雪

草

風霜何雨草秋劍月
斤樹生田三笠山いそぎ
古大和なる武蔵の下草おもふ人なみ
まつのきの下草氏錦と織なして龍田の森の神もしるらん信明

十七 草 小草村 まそ草 八重草
百草 草ごろも 生 苔 木の下草 利まつ
谷ぢの草 岸ずけの草 草の原 草かくれ
草枯 田まわく 草村 芝草 三馬草

草

まそよ 夏まそ苔 苔ごろも C野 印西 田沢 梁
苔 雪 木ぐれ 春日野 古松園
古 春日野 古松園
新古 夏草八茂りあひて
八 一苔 若草 むす 苔のした 苔のした 苔 苔むす 苔延
○山石根 苔 松の下 古まの 沼末 古沢
死の打末 木のもと いそ 谷の戸 古家

草

芝

藻

藻 沖津藻 もを
ほを 藻くづ 玉藻 藻の花
藻刈舟 藻刈女 藻汐 藻塩
○浦遠 うらとほ
柳生 綾芦のやう 浪 真砂 池の
みさご 水さごのやう 波のまにまに
まじものの 潟 かた 流れ 入江
芦 わかの芦 芦の葉 芦の中 芦やの如きものあり

草

芦原 芦の葉 根 芦の露 乱芦 芦の声
芦べ みさご芦 村芦 芦かる声 芦つ
○入江 沼 沢 沢の菅 かこめ 略
そまや 御園 柳 真砂の上 舟 菱
みさご 玉藻 彩波 汐 川 田路 鴨
綾杏 うの 浦 汐満 汐干 浪 鶴 なく 恋人
芦の 漕棚 小舟 小舟まち 漕人 かこ
あらそふ むすび 人 人もの 芦 芦の家
芦ぶき 芦の家 芦ぶきの家

浅茅

浅茅　浅茅生　浅茅が宿　浅茅原　浅茅野　浅茅山　浅茅生の小野　浅茅が露　浅茅が袖　浅茅の音　浅茅の月　浅茅ふ　浅茅ふく　浅茅ふる　浅茅ふる軒　浅茅ふる宿　浅茅ふる庭　浅茅ふる門　浅茅ふる小野　浅茅ふる山の麓　浅茅ふる山の端　浅茅ふる山の峰　浅茅ふる山の里

菰

草

竹

竹 川竹 長竹 村竹 谷の長竹 おなじ竹
いろの竹 竹の根 竹の根さし 竹のさ枝
竹のこ 竹の畑 竹の子 竹の子
竹の子を 竹の林 竹の下ろ 竹の子
○川辺 川竹 竹の根 竹の畑 竹の畑 竹の畑
竹の畑 竹ようて 竹の畑 竹の畑 竹の畑
志ぶえ 竹笛 竹の里 源平山
いろのとの賀き人 竹ようて 竹ようて

竹

竹の林 竹ようて 竹の畑 竹の畑 竹の畑
竹の畑

鳥

雁

一行 小田入畔　田中の畔　山田入畔

○霜　庵入川一と雪　雨雁　村薄　秋風

一雨　一露　鳥　落る　落る音　雪　降る　雪入声　降る　降雪　村落

○例　落雁　松　江芦辺　沼川　源田　来　泥

柳　落　よこ雲　舟　林　池の汀　流の末　見る

雪の竹　雪　降る　かな　雪の河原　一万本入森

鳥

一雨　夜の落　友雨落　芦田落　田落入落

雨　田落る声　雨田落　田落入落

入雨　よそおう　雨落　田落もどり　まよう

かり落　田落　さびし落　さびしそう

○芦辺　漁田　田面　松原　汀沙　雪井

鴉 真砂迦丁 砂原 仙人
古き都 住吉 和の浦 入江よ日のさん
千鳥の声 洲崎氏の払 河波乃かも 田芸鴉
の浦 望一遠よるふりの 独おそよも 友
鴉のなみ〳〵 曳く舟一村落一夜宿を
碧落無き 精 鴉山
才三月四日 冬々夜鴉 憶子 竜中 鴉
之 土呂久
さそくるもの

鳥

鴉
邪波 一鴉 友鴉 鴉 鴉
月夜鴉 やまの鴉 山
狩場よ鴉の玉八原の
〇神社 多井 春 沈月 春 山寺 江の
竜の汀 市 地 杉村 山原 多数 奪
月 江 一家 鴉 飛尺 隠
大和川 井杭 鴉 鴉 鴉

鳥

鳥 ゆふ 鳥の子 鳥の声 鳥の跡 山鳥 夏の鳥 秋の鳥 冬の鳥 鳥の巣 鳥の羽 鳥の毛 鳥の卵 鳥の雛 鳥の古巣 鳥の古名 鳥の名所 鳥の名 鳥の異名 鳥の名歌 鳥の名句 鳥の故事 鳥の伝説 鳥の物語 鳥の図 鳥の画 鳥の写真 鳥の標本 鳥の剥製 鳥の模型 鳥の人形 鳥の玩具 鳥の菓子 鳥の料理 鳥の薬 鳥の毒 鳥の害 鳥の益 鳥の利用 鳥の飼育 鳥の捕獲 鳥の狩猟 鳥の罠 鳥の網 鳥の鉄砲 鳥の矢 鳥の弓 鳥の刀 鳥の槍 鳥の盾 鳥の鎧 鳥の兜 鳥の旗 鳥の幟 鳥の提灯 鳥の灯籠 鳥の行灯 鳥の燭台 鳥の香炉 鳥の花瓶 鳥の掛軸 鳥の屏風 鳥の襖 鳥の障子 鳥の畳 鳥の床 鳥の天井 鳥の柱 鳥の梁 鳥の屋根 鳥の瓦 鳥の壁 鳥の窓 鳥の戸 鳥の門 鳥の塀 鳥の垣 鳥の庭 鳥の池 鳥の泉 鳥の滝 鳥の川 鳥の海 鳥の山 鳥の谷 鳥の森 鳥の林 鳥の野 鳥の原 鳥の道 鳥の橋 鳥の舟 鳥の車 鳥の馬 鳥の牛 鳥の羊 鳥の犬 鳥の猫 鳥の猿 鳥の狐 鳥の狸 鳥の兎 鳥の鼠 鳥の蛇 鳥の蛙 鳥の亀 鳥の魚 鳥の貝 鳥の虫 鳥の蝶 鳥の蜂 鳥の蟻 鳥の蜘蛛 鳥の蚊 鳥の蠅 鳥の蚤 鳥の虱 鳥の蚯蚓 鳥の蛭 鳥の蛞蝓 鳥の蝸牛 鳥の蛍 鳥の蝉 鳥の蜻蛉 鳥の蟋蟀 鳥の鈴虫 鳥の松虫 鳥の馬追 鳥の螽斯 鳥の蟷螂 鳥の蜉蝣 鳥の蜻蛉 鳥の蜉蝣 鳥の蜻蛉

鳥 ゆふ 鳥の子 鳥の声 鳥の跡 山鳥 夏の鳥 秋の鳥 冬の鳥 鳥の巣 鳥の羽 鳥の毛 鳥の卵 鳥の雛 鳥の古巣 鳥の古名 鳥の名所 鳥の名 鳥の異名 鳥の名歌 鳥の名句 鳥の故事 鳥の伝説 鳥の物語 鳥の図 鳥の画 鳥の写真 鳥の標本 鳥の剥製 鳥の模型 鳥の人形 鳥の玩具 鳥の菓子 鳥の料理 鳥の薬 鳥の毒 鳥の害 鳥の益 鳥の利用 鳥の飼育 鳥の捕獲 鳥の狩猟 鳥の罠 鳥の網 鳥の鉄砲 鳥の矢 鳥の弓 鳥の刀 鳥の槍 鳥の盾 鳥の鎧 鳥の兜 鳥の旗 鳥の幟 鳥の提灯 鳥の灯籠 鳥の行灯 鳥の燭台 鳥の香炉 鳥の花瓶 鳥の掛軸 鳥の屏風 鳥の襖 鳥の障子 鳥の畳 鳥の床 鳥の天井 鳥の柱 鳥の梁 鳥の屋根 鳥の瓦 鳥の壁 鳥の窓 鳥の戸 鳥の門 鳥の塀 鳥の垣 鳥の庭 鳥の池 鳥の泉 鳥の滝 鳥の川 鳥の海 鳥の山 鳥の谷 鳥の森 鳥の林 鳥の野 鳥の原 鳥の道 鳥の橋 鳥の舟 鳥の車 鳥の馬 鳥の牛 鳥の羊 鳥の犬 鳥の猫 鳥の猿 鳥の狐 鳥の狸 鳥の兎 鳥の鼠 鳥の蛇 鳥の蛙 鳥の亀 鳥の魚 鳥の貝 鳥の虫 鳥の蝶 鳥の蜂 鳥の蟻 鳥の蜘蛛 鳥の蚊 鳥の蠅 鳥の蚤 鳥の虱 鳥の蚯蚓 鳥の蛭 鳥の蛞蝓 鳥の蝸牛 鳥の蛍 鳥の蝉 鳥の蜻蛉 鳥の蟋蟀 鳥の鈴虫 鳥の松虫 鳥の馬追 鳥の螽斯 鳥の蟷螂 鳥の蜉蝣 鳥の蜻蛉 鳥の蜉蝣 鳥の蜻蛉

鴎

鴎 ゆりかもめ 入江の村にの人家ちかき海辺に多し 俗乳
呼 夫 路 ゆりかもめ 沖の鴎 路ゆき 路ゆく 路じまのて
ゆりかもめ 沖津舟 浦浪 入江の濱 ゆりかもめ
芦鴎 汀の雪 月夜鴎 月夜やけく 乳鴎
路ゆく友鴎の浦の沖津洲に 夜舟ゆく月夜やけく
浪のうへ消ぬものとみつゝ 路ゆく友鴎 後成
一首
鳧 集の声 多し ○林 淋しき山中
山家 石火矢 路ゆく友鴎 ゆくえ ゆくまの雪

鳥

雀 雀生の巻 ちゝの神 ちゝの声を朋友みくしもとゝ
ちゝの声を朋友みくしもとゝ
山ちゝ 雀 一首 雀 仲人雀 八声雀 多う音
ちゝの声 ちゝの声 ちゝの声 ちゝの声 ちゝの声

雉

雉　雉の声　○昔作　稲米　蔓延　門田　小豆の葉　蔓延　多羽田　萌代　村雉　かくろう

鳥雉

神　神る　神るとり　○田中の畔　蔓延　海一ノ巻　昔作　蔓延　湖水　人ごゑなみの山路の清水　雉　雉子　雉の声　里近き雉　○松　なるかくく　木こり法一ノ巻　森　伏人山　高園の山　飢雉（キヂ）　雉子（ケヂ）　谷ぐゝ　雉　方

牛 犊

三五 一牛 野牛の牛 やまうし 小牛
牛の車 仕あく牛 あり牛 ○官人 田つくる
四人のつまむげまき 甲冑かぶと 耳次山の
枕詞 ももの名牧の小牛 ももとせ 百年
又百年 ももとせ 百年 ももち山川 ももち
三六三 一猪 ゐのしし かまもく 猪ねらい
○るくや 谷つゞ 篠竹 義 山うど
義 古名 ももち亀の山

虎 狩

又 ももち山の尾とつゞきたるやま 又
三七四 一虎 虎ふす 虎ふせ 虎ふし 虎ふす
うくる虎 ○竹の林 虎ふす 虎ふせ 虎
法のある小捨ら 日清 君ぬし 虎ふせ 虎ふし
又 武士のさつく 又 一逃 あく逃 逃の住山
三七五 一逃 あく逃 逃の住山 逃の住山

狐

○奥山に棲む 狐 本朝食鑑に奥山谷窟古木のうろ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

猫

犬 獣

歌枕

一雁 うける雁 雁の
○奥山 谷の
嘉祥 苗 山畑 岩根の
一蔦 蟹 ちくらおの
ちくらおの 蜘
○小宇治の奥 せこ住
唐土の
侍
奥

奥

一奥 付 見
●見捨て 三員 三員
○うき舟 浦 池 川
歩の 苫 苫
○小八 浦 浪
住吉浦 二見の浦
宇治川の 屋 屋
白き奥 代 井
藤 藤
村 村 谷
草 村 谷
侍 村 竹 清水
奥 ちへさき奥 鰺
三員 三員
舟 浦 池 川
苫 苫
朝日 朝日 青 新 宇治川
浪 浪 みち 沙 川
住吉浦 二見の浦 仲 勢の海
宇治川の 屋 屋
白き奥 代 井
法性寺

雜

雜部

一日　甘雨　天朝　朝陽　夕日　夕潮　日出
日沒　春日　夏日　秋日　冬日　朝日　月
●雜のみにて　春夏　秋冬　朝夕　晝夜
●天　天地　天下　天津　天氣　天の戸
日月　長閑　雲霧　雨雪　風波　天氣　天象　天文
數百町　峯　山　谷　野　原　朝夕
●雜のみにて　朝夕　九重
月清　いみ　夏もよ　や八　人の　まこと　ふね　ふる　ふる

天

時　もし　きそ　ふの　気　ふる　ふの　風　ふる　ふる
青　きそ　久　ふの　ふる　ふの　ふる　ふる　ふる　ふる
ふの　ふる　ふの　ふる　都　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる
●天　天地　天下　天津　天氣　天象　天の戸
日月　長閑　雲霧　雨雪　風波　山　ふる　ふる　ふる
數百町　峯　山　谷　野　原　朝夕
●雜のみにて　朝夕　九重
月清　いみ　夏もよ　や八　人の　まこと　ふね　ふる　ふる

雜

十 わらうちのきくらもとやぬ
（代）
（村）
寺人 ふかくさとの山そよふく
（風）
天のとを押ゆくふもとも
（音）

二 星 天津星 星の光 星の
（空）
夕もつく大白星の見え 星の林 星の位 百首の
（歌）

○夕 暁 ○夕 雲 冊路 雲 志の柿 菊 晴 五月雨
さくら 三三 暁 寒夜 河鹿 神楽 鶯

時

古 冬こ風のよそうら菊八天津星なくきこれけり 鷲
（秋）
卯河の川辺よ志ろ白菊さくなけれ 其後
伊勢物語
さくら夜の星ちりの人の空をあおぐこゝろの左夫 筆事
千 五月やさゝ小雪よふる

三 朝 竹の 朝戸出 朝まくら
（笹）
朝ぎりを 朝ぐもき 朝おく 朝の紅さ
明日 明方 わさ六 初雪 日 明渡る 明星く 明国
（雪）
（雪）
（雪）

夕

寒中乱川　水開　わき渡る海　浦の狗舟　春

月うすきさえ　こずえまく　袖　夕のこゑ

かすみたつ程も日ごと朝毎のたゆみなき朝ぼらけの信

夕　竹笹の夕ぐれ　朝ぼらけ　夕ぐれ　夕ぐれ

夕ぐれ　夕ぐれ　夕ぐれ　夕ぐれ

●夕ぐれ　そらうぐひす　そらうぐひす　そらうぐひす

そら源氏　そらうぐひす

夜

○神々たちは　燈　多乃祢乃　待月　人を待

夜　さ夜一夜　二夜百夜　幾夜　この夜

夜もすがら　夜半　夜の程　あやめこの夜　明ぬ夜

夜もすがら　夜をすがら　○松しぐれ　月

小田ぢ　袖　琴の声　夜半

泊舟 行人 蛙 秋深 衣

夜とすゝる首尾をみやるべくそゝろや心遣ふ 馬衛

六

二雨 雨そゝぐ よこきる雨 夕の雨 朝の雨

雨夜 雨ふる 三月の雨 忘れ雨 雨そゝき

村雨 雨ま 雨くき 雨ふき 少雨 えちご雨

○降やむ 月くき うらみ雨 夢山ぶみ

降しき八 旅の中宿 岩家 落涙 蛙 蚤

舟のゆる 笑人の降る きのふこふる 因ふる 捨ま

雨

雨ふり竜 降まく 河もの ふん 鳩

雨小雨 雨小雨 ふるやうふる 雨ちやめふる

雨

滝 松風 木の葉ちる谷の初時雨 進手内裏
さそふ谷の初時雨 進手内裏
秋の門行くも帰るも人ぞ知る 琴古調
●村雨に 散る木の葉かと 見るまでに 琴古調
月のかすめる 夜の空かな
大法 槽心如急雨 小法 切々如私語
琴古
いろいろの人こそ来よ村雨の 琴古
月も花待ちえぬべき村雨哉 未の里人 支内

雲

一雲 白雲八重立ち 村雲の 浮きて 楼を
雲ぬ 空の浪 久のもと 大内山を
雲の 立ちそふ 夕べかな 朝みねの
○雨 雨と みそれ 久しき 五月哉 素外
雨ふる日 ぬかの 天津雨 稲妻 雷風 ふる
ゆふち 死人 子規 下の声 夏人 夏の雨
富士 雨の城山 生駒山 雨のむま 山なみの
古 降むしろ 三日の 雨雲の 雨雲 貫之

煙

八
一烟　朝の旅人多嘉　焼火の旅　里の煙
遠く疎く中絶　海人の烟　あさ烟
おのが竹の烟　竹の烟　あの烟　妻の烟
○後の住家　其の十　妻こもれ　小家　海士の住家

山住ノ　西ニ埋ム　行客ノ跡ヲ　りあとふ旅人の事之
竹ニ遊ブ湘ノ浦ノ雲　疑ニ駁ノ舜ノ跡ニ　駁ノ舜ノ跡ニ

民のイ　さまざまの竹のこ　塩海ふこ　松原川う
柳　胸のさわぐも　富士　我門う
檜焼　里のけぶりもうし　里の夕暮
山ふところや　庭竈の松こそやさ　信濃　多き淡路の島う主旅　凡まぐさ　の旅のやどりも　いつまでふむのくれるよ家とふ　柳ニ乞　未焼ノ入ル　酒壺ニ
松原　竹ニ雀　後城

風

雨

日
天津風雲かよふらし女のすがた雲のうへに見ゆ

十
一鳴神　名神の雷　神なりさわく　そらにしる神

叡の古墳　須磨の浦　さすらへ人　おくつき山　おくつき人をいかにせん

於名神の青雲をきく春の花　奉向の花　雲外山　人命

新古
白雲の何そこの人のこころ　伊勢物語　業平　人をいこふ夕べ　消なまし　初雪

さりきてふもいかにふりけん　神なり

古
天のかぐやまこえてゆくらん　雲の中とぶ　人

虹

後拾遺
名神の雷と香おちつきのか山　そらそら夕立のそら墨

十一
一虹　名川　虹の一筋　立虹　立虹うれしき

○雨のほそ〳〵のそ　山のて　入日を　海つら　川上

わたしの松　八雑　虹のような蘇の枝　雨を消て

更まさる　うけりけり　俊恵法師

十二
一天彦　ニハ○附る　瀧浪　谷の流き　立ちきの奥

新古
わすれぬ
むこのこそ一声　山の河音　一声をきけば二もとの杉

鐘

十三
一鐘　かねのね　鐘の音　鐘の声　鐘をきく　夜をこめて

新拾遺

曉の鐘　○遠山寺　淋しき心　尾上行く曉
松原の奥　うき別　まつ〻　袖見えそむる日　笈枕
泊舟　捨てし雁　清き涙　雄波　初瀧山
志賀寺　明石潟　空蟬　空
山寺の　入逢の鐘　もろともに
曉ごとの　拔をそゝぐ　き鐘の色哉
高砂の尾上の鐘の　曉ごとに　聞てやすらふ人も有
遺老寺鐘　敲枕　○夜半の鐘声　到客船

田

一田　山田　小山田　荒小田　遠山田　漆田　門入の田
千代田　田中の井戸　田井　田氣　冬田　行山のとこ〻八田
荒田　禁田　深田　山石のとこ〻毎田　田面の畔　仁捨田
田長田子　○五月雨　柳行　そゝのく　岩瀬
夜叉　山陰の里　村雨の名き行う
見御鴫　庵　沢　柴橋
稲妻の文乃里由そまで山田る夜よ夜半の衣武蔵野
一野　春野　文里　秋の里　冬里　山のふけ里

市

拈里 小野 すゝ野 未の野 野もと 遠野 野人
野もり 野原 野沢 野中 廣野 わら野 野路
○草 莖 駒ふ 出清水 沢水 狩場 旁
萩薄 秋八草 松 蘭 男 小杜原 雲雀 茅原
布留 小倉里 春日里 遅風 三笠
古 野もそわそそ人もみりも 流るゝや 在を雑を杜のもり 遍照
支 海かきこぬりこのゝ 今生付 もの月 もの下にまくらなし 雑
丁云 一市 朝市 市人 市のうち 市の陽

岩

立市 市女 ○里人 野人 野里 砂浦 賀くら人の門
くら舟 車 駒 三輪 餓(エカ) 住吉 安部野
流さきゝ駒ふ 大陽(ヒ)くる 朝市
於里乎 それぬ乃(ノ)ゝ人野里を立ちくる市に出る里人 定家
在中八市のうち 松 独殘りある人家
一山石 付石 岩根 山石 山原 山もと 山名
山名もむ 岩乃洞 出名(ヒナ)ゝ 岩松 岩階
岩名くれ 岩あまり

砂

●石 名乃石 石乃
○いそ 八松 苺 山井 材 池の 紅葉 麦
古まの乃 梅子 清乃 遊 滝川 鮎 谷乃
磯人 苗 箱根乃乃 吉野山 吾山 戸無川
君乃代 天乃羽衣 まつさを 厳 (よろづよ)
天そよ 河辺の石の 乃乃つく 宮 君八 三れ 一 変
一真砂 まさ砂乃上 真砂の道 渡乃まさこ
○さりある 芦鶴 松原 雲 苔乃乃 渡

柴

まさ乃かく 袖 遊 砂 神乃 御 乃 温 ふる 湯
みふ川 温 文乃 百敷 千浮の 玉藻 き
清 (すが)
一柴木 付 葉 八木 まさ木 山柴 打 柴 下柴
文う 柴人 柴乃 苅 楢柴 推柴 紫 冊 柴車
柴つく車 ○山路 辺傳 山里 林 文乃 魚 雪市
乃 竜 遊 渡冊 市乃 湯 宇治乃河冊 小野 奥
●薪 葉 薪 薪 来 樵乃 袖

毛

○山蚕ヲ駒ヤ 法ニ入ル 柚 年八月
採リ葉ヲ吸ヲフ 捨新ニ設食フ
松
法華一經ヲ書ケリ 一本分ケリ 行基
●木木 木木ヲ 木ヲ捨ム 木木ノ
彫古
筋彫ヲ古ノ木ヲ木ヲ花ヲ 源信
凡
今ヲ月ヲ木ノ木ヲ彫ヲ木ヲ ヲケヲ少人 宗
干
一盃 ヲ盃 二盃 蓑盃 ヲケノ盃 ヤ一ノ盃
梅ノ心盃 ヲフヲ盃ヲ ○猿人 狩人 弁当 舟

蓑

布

市女 早苗ヲ袖 ヲ盃 山蔵 大城野
古
侍ノ盃ヲヲ城フ ヲノ八面ヨリ一ノヲ盃ヲ
蓑
多ヲヲ山ノ青ヲ彫ヲ
主
一立蓑 ヲフヲノ 山ヲ
初六
カヲ彫ノヲ名ヲフ 医心ヲ彫ヲ天 衣盃
三二
一布 布ヲ彫ヲ布 布川ヲ
作ヲ彫ヲ彫ヲ麻衣 紡ノ細布
○川ノ 平地称 龍津浪 雨ヲ浪 井関ノ浪

洗衣

衾

麻衣 色衣

衣

[illegible] 宇治 玉川里 河蛇の里
武蔵の
[illegible] 布とさらすなり 白妙の里 定家
[illegible] 洗衣 ○雨ふる [illegible] 旅人
[illegible] 色を待 [illegible] 旅人
[illegible] やもめ住 いそのよる竜
[illegible] ○賤のを 稲を [illegible] 野も
[illegible] 麻衣 麻の衣 [illegible] 麻のさ衣 本草の麻さぬ
[illegible] 夜の衣 付花の袖 [illegible] 袖 [illegible] 袖 [illegible] 旅人 袖をき 野も
[illegible] 衣をり衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣
[illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣
[illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣 [illegible] 衣

浪うち衣　浦分衣　袖つきむ　すそうけ衣　吉衣
うす衣　捨衣　青衣　濃き衣　炭やき衣
喪衣　ま薬の衣　濃き衣　ふじ衣　むのつ　衣
●衣の袖　むめ袖　袖のうら　すそ袖　紫の袖
ちの袖　きぬのうら　そらやまとね　そらやまとね
きぬの　音なし　ひめよきぬ
○ふるまひ　ころも　かざし　のむ　ころもの袖　行事

火　焼

〇特　奉献　たとやの袖　人の人　的屋のすきうけ
うちめく人　小車　袖の波　鳥物の匂ひ　ふもむ仕
●衣のうらニハ　君を待　思ひのうき　お渡　うちめく
下ゆ　菊の袖迄　うちめく　着人の袖　車の内うち
一焼火　かうり　苅火　やう火　くく焼火　いさり焼火
ちくさ焼火　むね　ちくさ火　朱土のさく火　胸の火
胸のうち火　〇心室　焼うち火　神ふ盛
〇恒寺　浦舟　芦ちや　名ちさ　海士屋　胸の思ひ

舞火灯

三十七 舞火灯 舞の灯 舞ふて

○神まつり場 月夜き夜 指舟 遊の池うき

九位宇 宿直人 笛 琴 網代守 狗舟

うるさよとそこの悪の娘しも 遊園

色源氏の巻あそ玉もまも琴をそ一へつふこの遊園

きよて舞火の鉄払ひ 舞 焼 舞ふて

ふとりろ一ふまりそ 琴をぬ拾ふて漕ふ玉葛

三十八 行桑をきまりそよ舞火の便よたう綱とふく玉葛

一灯 名の灯 夜の灯 名の灯 夜

火

かんとる灯 法の灯 まくく灯 灯ともし

狗の灯 月の灯 蟹よそひる灯 蛇の灯

えのまくえすこえ

とうろう玉の灯 すうそう

○古寺 卵松 法行 とうの木 学の文 狗舟

人待灯や 月待猿 笹 さ百合屯 ひとり墓

まつる仏 舟の子 友出 四石の浦 天の指玉

酒 田 灯 重 用 宴

玉人のおそろくく久月の中の五百万まつり灯

車

炭つむ車　炭の車

○狩　衆人の物うち宿　そのうち　物人の物

先行の下　都路　淀路　子日の帰人　供の者

大原の道　供奴ゆきの乱　調物うち　夕べの宿

年中行事　つきそひ乱つゝみ人の車　乱てゐる人

同　車のもとをうちそうそうしき　ぬの帷子

みをあらふ　○君ぐるま行　忍車　みそぎ

三八伊勢物語　石山の鳥場入日　うち

ふ　供奴ども　ゆきそひ　車　ゆき

ぐるま　物人車

車　淀車　きぬ車　服着の

ろの車　くるまよりおり　車をひくるよう

本車　大きなる車　ぬのねと

うちそうそうしき　装束を　紫つく車

ふ　○君ぐるま行　忍車　やう

車　七車　かこり車　忍車　やう

車　小車　力車　ふつう車　そろへ車　ふ

車　ぐるま　物人車

ふつう車　淀車　きぬ車　ふ

ろの車　くるまよりおり　服着の

本車　大きなる車　ぬのねと　車をひくるよう

うちそうそうしき　装束を　紫つく車

ふ　○君ぐるま行　忍車　やう

車　七車　かこり車　忍車　やう

車　小車　力車　ふつう車　そろへ車　ふ

車　ぐるま　物人車

ふつう車　淀車　きぬ車　ふ

ろの車　くるまよりおり　服着の

本車　大きなる車　ぬのねと　車をひくるよう

うちそうそうしき　装束を　紫つく車

鏡

一鏡 まん鏡 朝鏡 後の鏡 古鏡
何とて野守 澄月 尾上 須广浦
みるかひなきの歎きつらん 業平

繪

山ろハ三郎君とうろこ郎君かきつらねき
月かくれなんとするころ 是源氏の四の巻
ならんと 義
引きてこと新たになりぬ
主 高尾一曲掩 鏡ヲ 昨日、今日 今白頭
簪 うら姿 墨繪 冷合 仮名遣
○うすもの 花扇 文 屏風
もの入 順広の神 佛まつり

序

狭のくぼけき　ようハ海士の住ひ　ところそみゝ
○是ハ源氏須ま　人丸の四時の詠
きくのおりよ　須ま　の浦ふの事ふを　繪ふ
うゑ　都ゐ　屏　おゝそれをおゝ
ありこれ須ま　なそくしけ　繪をゑ
めそく　拂ふ　ゐまいくまの　人拂つかふ　ことをう　ふ
入上これ程の繪ふ　そ秋よみをゑそ　源氏　雀
みゝ　源氏へこれの　拂ふ　これ繪のふ　ふゝ
拂ふ　ゐまふ　ふ　俗のふやまおのれむすめ　伊ふ
ゑ　ふゝふ　ふう　ふ后ふ　ふゝ
ゑ　ふ
○是ハ　甘碆　ふの
れ　一へ　海　歩ろ碆の
れ　ゐまの　海

○ふ　ふ　敷ふ　ふゝ　ふ　琴ふ　讃ふ　ふゝ　ふろ　物
ふ　小野ふ　奥
ゐゝ　ふゝ　ふ　ゐまふ　ふゝ　ふ　ふ　ふ

○百敷の内 例ありて空地 人特多や
二八月 琴の音 えもいはれぬ
山家 屋敷や 山際八行程 二
一髪 みだれ髪 朝寝髪 初礼髪 ともえ髪 切髪
振分髪 垂の ことも ちぎり髪 ちゝけ髪 ゆう髪 洗髪 束ね髪 若衆の ゆう髪 ゆう髪 ゆう髪
○物ごと 物の 別れ 昼や 海士 ことわり
初髪 元服 ○いそぎ 元服の 後頭
一筋 髪 元服 ○いそぎ 元服の 後頭
添ふての 油 元服の 夜八 後
一側 ありあけ 連歌 側みたふ おやこ やまひてくん
や ○引出 竜ち宿 とてもう 入仕 里住 路行
ちゝ帝 月ことわり 閨 花ことわり 床入

左近

季吟

おくれ　わおくれ　さすらへて　ゆく年　いつとなく　なくらむ
　　何とよばれむ

一方廷　病人を　さすらふる身　雁ぞ鳴く

○ふるさと　冊路　浦の笠なみ　いちごやき　世けぶり

井波　心なく　作者

折古　さすらふる身は　ふるさとの　家路やあるらん　雁の声

○其名　乳基　あるべき　其名　むつまじき　乳基

○笠竜　ふるべき　笠や　忍人の宿　とうえくう　星のうち

暮

外　中川人宿　菊を　折　折　夜まで　ゆく

家来

よのつねの　ふるまひ　なさけ　あるじ　みまもり

もとうねの　中納言　いまの　門（かど）と　中ふうんを

此　逢の菊　をりかけて　暮そうそを　ふるまひ

作　まちもうけ　菊を　折　折　夜まで　ゆく

咲　どころの　名所　おもむき　ありて

むつまじく　ふるまひ　なさけ　あるじ　みまもり

二人　おくりまん　ゆく　道　名所　ふるまひ　なさけ

道名　とうえくう　星のうち

茅の　頭の　折　折　夜まで　ゆく

外　中川人宿　菊を　折　折　夜まで　ゆく

鞠

誤入仙家隆半日忽帰旧里経年世孫
鞠　まりの事　鞠の条　鞠わらび　又鞠
声くさぐさの鞠の数　なりまた鞠の音
○こすのと　小角花の下　柳陰　又雪の砂
尺ちり休　斗文　砂の真砂　白河の宿　描
枝のそふきて散そふ鞠の　もの　雲
ちるそなるけき八雲れも砂也　そのまた
小　是を拍子のまりまりまりまりまり注く

詩哥

詩　作り詩　うそく　唐の
○月花　孟の文　引琴　まる袖　菊の
むしまやの長　ふるしら歩のも
哥　和り連歌　秩父　長の人　えそ西の
あの乃　その花　その友　その摩　秩父
その道　まの落の　難波津の道
○都人　糸竹の声　琴の音　泳ぐ月　賀
花ちり　酌酒　蛙の声　琴　打ち中

七夕の遊　四町八
まゝそり住吉の神と称する人を侍用
女
やうくまそのくれ宿りあるを月の傾くこにみよ
もゝ社このむら中さの神こゝは末のくに今もと申
ろそゝそて社をそ
日
月よ夜ふかくろ
もゝ社この上の
八重のくゝ社とそ一つものむて中そ
宮とゝ八云傳へ

ゝゝゝゝ声ゝゝ一〇幸作　琴
盃の父神ま
主まゝゝけ　舩人
山路日ゝ漏ル月ニ者、樵夫の牧笛声
法ゆきてやきめる
もゝ八葉平のゝ伊を物語よめ一あれねくく
ありきて他ゝ
年中
久世の天八首の神遊ゝ人

琴

琴 梓ニ云ク一曲 釣漁翁

一字 まなびの道 みのろ まひ ろこそ

あそもむ ろろるひ うこきまひ

○志の巻 灯 志の名 法の師 法よ入 抽

字のうち ともむ 伝うねと

琴 琴の音 琴のふ 爪琴 引琴 うの琴

琴 琴 琴のうく かきるう寸琴 作 寸 琴

琴の緒 古琴 と琴 琴ぢ おづまねと

琴

四の緒 ことにうのふ 緒そう琴

○実不 酒の席 ふる扉 雨夜の 街の

三すの内 学の声 琴

七々 寺生の宿 馬上人待周 佗人の宿

明石の浦 宇治の舎り 須ま浦 相坂関 旅

行 ふる 流 あり 琴

姉妹 なる六ふ琴のふうさまうのろ 村雨 かく

琴の音 ふのうさねや 秋の 笑 ふ 人 力 邪

笛

笛 竹笛 笛竹

笛の音 琴笛 ○悲ひあり 前ぢり

笛の音 横笛

笛竹

笛の音

笛の音

笛の音

一今の宿ありさまよき所の笛のさまにて陸源
海士の釣をせむ虫の音もとりあつめたる世とならひみ
もしば芝の庵ふしてるくこゑりたるう
夜ふけに笛をいとおもしろくふくこゑ
おくれなるこゑけるを伴をわ治ニアリ

牧童寒笛騎牛ニ吹
ニさゝ波や世間一ふの笛をふかせし秋の暮
宇治山ますてふ
楼閣笛竹ふく風のとものとをふかせうそん

もゝ柏木の夕ぐれ方なるみそ河のそこ
康元 村風 吹笛處ナリ
一糸竹 笙法のまゝ糸竹の声 糸竹のそこく やわら音
あるまゝ糸竹 ○其の賀 月のかげ 其の席
みゝ一 敬而法のみちさゝ夕 うらめく舟
華人かさしき 池の舟 九まの内 手ごれうち
主人下馬客在舟ニ笙ヲ海ヲ飲ム飲無管絃
第一奇絃声ハ庵桃ス滝ノ氷ノ如ク流ス不得

物思ひのくさ〴〵ある女神神楽
もとゝ源氏の中の
とゞめて八百万神も
奉幣 吉田
天津風 八乙女の通路
もゝとせをはの舞姫を天人よみやびをも

一舞 一舞人 舞姫 神舞 立舞 神舞の型
乙女の舞 花のいろあや舞の型
○琴 笛の声 神楽 百敷の内 みくし
内侍 花の笑み 御うけ かうしめむ
月の如く 夜々 夜々
奉幣 胡蝶 吉田
天津風 八乙女の通路
もゝとせをはの舞姫を天人よみやびをも

五節の舞 清久泉の天皇 吉田 通陰
物思ひのくさ〴〵ある女神神楽
もとゝ源氏の中の
とゞめて八百万神も
奉幣 吉田
天津風 八乙女の通路
もゝとせをはの舞姫を天人よみやびをも

五節の舞 清久泉の天皇 吉田 通陰

玉

こもりて琴を引立度袖を迎て森のみをもうき事も
森もるまでわすれまもる人の面こそ七夕
黒の姫代おりのいとしろもまこそすれ
玉 みるもの玉 玉藻 玉葛 玉章
思ひのむすこ ○露はらう月 蓮の露 菓露
うてふの月 待宵の月 君代 汐のみち汐 千珠 浦珠
板屋も雫ぬらす雨 基俊
雫 川辺のともしく 砂ほろ 陰涼
池のうきふしまで人まつ夜 公實

錦

白露の下くゝ秋の雨 朗詠
おもひ八河の岸 雨 雫 泉 弐
秋六 いろ〳〵の玉ぬきをむすびて
四十九
一錦 錦きる 二面錦 もみぢの錦 萩の
みやこ 錦のをしき 錦織 錦川 錦
錦衣 ○都人 帰る雁 錦の色 ふるさとの袖
舞の袖 小車 行幸 花盛 萩の露 住まを
枕 もの思ふ袖 ぬらす雨 袖とふ雨 袖とみふる雨

仙人

遣唐使

都君

一都 付九重 京より都の門 於ん面 ゆきこゝに初 門ろく初 すめる初

●九重の内 九重の道 九重のうち 九重の門 京より入門 京人 大宮人 内ずまひ

所住 百敷 宮の内人通 もの上人 雲の間 仙洞

通ふ袖 みやこ 柳 花ちる袖 三笠山 注連

●みやこ 柳 花ちる袖 三笠山 注連

上東門 月 みやこを 待明る 遅き初雪 行幸

連ね方 友 ふりつゝ君 同也 八潮八十

琴の音 旅人 志賀 雄波 布妻 三の松原

奈良 わすれ 古里

みのうへ 久延の松 三笠山 久し

澤 ふる 程もなく 路を 松のよろこぶ 公家

君 大君 君の御代 君ろく 君ろく 君ろく 時

かぐら 君代 をゝゝ 君の御代

御殿 御門 まつけ 君をまつけ 君の宮

掌

○泊る筵　乳母ども　姫君　姫
司召　駒召　花の賀　月の賀　調
又遠の君よ　乳母
物
芸行のうの和ときくうた君うまをかうむ　補
幸五
○御車　君ぬ　君ぬ　君ぬ

宿仕

一寺七 女房の油 ひかへ人 おつとめ

○ここにも 女の油 人めと妻夫 月もとなし

又神のえにうりおてぬさうる油 清まくり

一寺八 宿直 この守 宿直人 宿直り

このして 宿直やつま 宿直不 宿直 もろ油

○灯 えの内 夜夜 妻夫周の戸 妻ちやうと

わらそ帰り夜 関所 宇治の里

一寺九 調 みつき物 まり調 油ぬりつき 民り

貢

一九調 くこ一九つき 一九調

○治部省 於路 せうやう長櫛 車 馬 米ぬる

うち国の舟 難波の舟 舟

手中 一九国の一九調そ多く年舟そこ実

一九 百済より傳へまくの法の声やまこ屋そ実 新羅

全 一九つきめこ一九そ二方の生人数を以 家従

まま 毛織や国つきの一九調物として実ものこ今るまこ風俗後

六十 一わこまるを なるこ 右 わこ一ぬ

酒

○美宿　花入の遊　賭弓　弓矢の事

酒入の序　糸竹の声　盃の清り　連句

門入の朝清め　山ごもり

一酒　酌酒　酔の中　酔の乱　ことわざ

○祭　糸竹入の声

神主　鶏の功　関送り　関迎　舞人

菊の宿　月花の縁　和歌　詩　讀み　神楽

年越　婁元　歳暮の祝會　たくわえ　新年

住吉の市　七ツ子

一曲　紅消水　教　無り　狂諸　翻酒行

舞楽　年中行事　六月水無月の祓　君が代

菊の水　いわいの七ツ子　盃の大小

万歳　ことぶき　宝ものくさ　二つまつ　酒よわよわ　家内

●酔心二八　荒礒入舞　そぐろぐろ　狂もの